

海外食料需給レポート

(Monthly Report)

平成 2 0 年 9 月

農林水産省

目 次

I 穀物

1	2008/09年度の国際的な穀物需給の概要	1
	【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂	2
2	小麦	
(1)	国際的な小麦需給の概要	3
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	4
イ	カナダ	5
ウ	オーストラリア	5
エ	EU-27	6
オ	中国	6
カ	インド	7
キ	ロシア	7
ク	アルゼンチン	8
ケ	ウクライナ	8
3	とうもろこし	
(1)	国際的なとうもろこし需給の概要	9
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	10
イ	中国	11
ウ	アルゼンチン	11
エ	ブラジル	12
オ	EU-27	12
4	大麦	
(1)	国際的な大麦需給の概要	13
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	オーストラリア	14
イ	カナダ	14
ウ	米国	15
エ	EU-27	16
オ	ウクライナ	16
カ	ロシア	17
5	ソルガム	
(1)	国際的なソルガム需給の概要	18
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	19
イ	アルゼンチン	20
ウ	中国	20

エ	オーストラリア	21
オ	インド	21
6	米	
(1)	国際的な米需給の概要	22
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	中国	23
イ	インド	23
ウ	インドネシア	24
エ	タイ	24
オ	ベトナム	25
カ	フィリピン	25

II 油糧種子

1	2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要	26
	【参考】2008/09年度油糧種子需給予測の主な改訂	27
2	大豆	
(1)	国際的な大豆需給の概要	28
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	29
イ	ブラジル	30
ウ	カナダ	30
エ	中国	31
オ	アルゼンチン	31
3	なたね	
(1)	国際的ななたね需給の概要	32
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	カナダ	33
イ	オーストラリア	33
ウ	EU-27	34
エ	中国	34
オ	インド	35

III 今月のトピックス

○	増加する飢餓人口	36
○	バイオエタノール生産と畜産飼料	37
	【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）	38
	【利用上の注意】	39

I 穀物

1 2008/09年度の国際的な穀物需給の概要

○2008/09年度の穀物需給（予測）のポイント

2008/09年度の穀物需給は、小麦が価格高騰を背景に世界的な増産となる中、米国のとうもろこしの作付減少に伴う飼料用需要の一部を代替し、穀物全体としては、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

また、期末在庫量が積み上げられることから、穀物全体の需給は若干緩和するものの、低水準の期末在庫率が継続すると見込まれる。

【生産量】

世界の穀物全体の生産量は、小麦を中心とした増加から前年度より78.3百万トン増加（3.7%）し、2,195百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、EU、中国等で良好な天候等を反映した増産から生産量が増加しているものの、米国において連作障害への懸念などで作付けが縮小していることなどから生産量が減少、小麦については、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりなどで作付が拡大し、これまでの天候も比較的好ましい状況で推移したことなどから生産量が増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の穀物全体の消費量は、堅調な食用、飼料用の需要の増加に加え、とうもろこしのバイオ燃料需要の拡大などから、前年度より63.5百万トン増加（3.0%）し、2,174.1百万トンとなる見込みである。

また、飼料に用いられる穀物については、品目間での代替が可能であり、品目間の相対価格の変動に伴い飼料用需要の移動が見られる。昨年度は、小麦価格の高騰によりとうもろこし、ソルガムへの移動がみられたが、本年度はとうもろこしの価格高騰による小麦等への移動が見込まれている。

【貿易量】

世界の穀物全体の貿易量は、前年度より4.5百万トン減少（▲1.7%）し、264.1百万トンとなる見込みである。

品目別には、小麦については、輸出国であるEU、オーストラリア等の生産回復や飼料用需要の伸びなどから貿易量の増加が見込まれている。一方、とうもろこしについては、昨年度急増したEUの輸入の減少や飼料用需要の減少を背景として貿易量の減少が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから前年度より20.9百万トン増加（6.0%）し、367.3百万トンとなる見込みである。また、穀物全体の期末在庫率は、期末在庫量は積み増しされ、16.9%と0.5ポイント上昇するものの、引き続き低水準となる見込みである。

品目別には、小麦や米については、生産量の増加等から期末在庫量を積み増しし、期末在庫率も2割程度となり、需給の引き締まりはある程度緩和すると見込まれているものの、とうもろこしは消費量の増加に伴い、昨年度に積み上げた期末在庫を超えた取り崩しが必要と見られており、在庫率が低下し、需給の引き締まりを強めると見込まれている。

表－1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2005.0	2116.7	2195.0	4.3	3.7
穀物計					
小麦	596.3	610.9	676.3	5.5	10.7
粗粒穀物	988.8	1,076.4	1,086.7	▲ 2.4	1.0
(とうもろこし)	712.2	790.2	783.0	▲ 6.6	▲ 0.9
(大麦)	137.4	133.2	149.9	3.1	12.6
(ソルガム)	57.0	63.4	62.1	0.6	▲ 2.1
米	419.9	429.5	432.0	1.2	0.6
消費量	2053.3	2110.6	2174.1	3.5	3.0
穀物計					
小麦	616.9	619.5	654.9	5.1	5.7
粗粒穀物	1,015.9	1,063.9	1,090.3	▲ 2.8	2.5
(とうもろこし)	728.3	775.3	796.5	▲ 3.2	2.7
(大麦)	145.2	136.1	142.2	0.3	4.5
(ソルガム)	57.2	63.5	61.5	0.2	▲ 3.1
米	420.6	427.2	428.9	1.2	0.4
うち、飼料用	741.1	751.2	772.0	1.5	2.8
穀物計					
小麦	105.9	95.3	124.5	4.7	30.6
粗粒穀物	635.3	655.9	647.5	▲ 3.2	▲ 1.3
(とうもろこし)	477.6	497.9	486.2	▲ 3.6	▲ 2.3
(大麦)	100.9	92.0	97.0	0.6	5.4
(ソルガム)	21.9	28.8	26.4	0.0	▲ 8.1
米
貿易量	260.1	268.6	264.1	▲ 0.9	▲ 1.7
穀物計					
小麦	111.2	113.6	122.9	1.6	8.2
粗粒穀物	117.6	124.7	113.0	▲ 3.0	▲ 9.4
(とうもろこし)	93.9	96.8	86.1	▲ 2.8	▲ 11.1
(大麦)	15.3	15.8	19.0	0.2	20.7
(ソルガム)	5.5	9.1	5.0	▲ 0.5	▲ 45.0
米	31.3	30.3	28.3	0.5	▲ 6.9
期末在庫量	340.3	346.4	367.3	6.6	6.0
穀物計					
小麦	127.1	118.5	139.9	3.7	18.1
粗粒穀物	138.2	150.7	147.0	3.2	▲ 2.4
(とうもろこし)	108.5	123.5	109.9	▲ 2.4	▲ 10.9
(大麦)	20.7	17.7	25.4	4.4	43.6
(ソルガム)	4.3	4.2	4.7	0.4	13.6
米	75.0	77.3	80.4	▲ 0.3	4.0
期末在庫率	16.6%	16.4%	16.9%	0.3	0.5
穀物計					
小麦	20.6%	19.1%	21.4%	0.4	2.2
粗粒穀物	13.6%	14.2%	13.5%	0.0	▲ 0.7
(とうもろこし)	14.9%	15.9%	13.8%	▲ 0.2	▲ 2.1
(大麦)	14.2%	13.0%	17.9%	3.1	4.9
(ソルガム)	7.5%	6.6%	7.7%	0.7	1.1
米	17.8%	18.1%	18.7%	▲ 0.1	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量はとうもろこしが米国などで下方修正、小麦、大麦が豪州などで下方修正されたものの、欧州で豊作を反映し上方修正され、穀物全体で4.3百万トン上方修正されている。また、消費量はとうもろこしを除き上方修正され、穀物全体で3.5百万トン上方修正されている。消費量を上回る生産量の上方修正に加え、前年度需給の修正で期首在庫量が上方修正されたことから、期末在庫量も6.6百万トン上方修正され、前月に引き続き需給は緩和傾向に修正された。

○ 大麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	3.1	0.3	0.6	0.2	...	4.4
オーストラリア	▲ 1.0	-	-	▲ 0.5	-	▲ 0.5
カナダ	0.4	-	-	-	-	0.9
米国	-	-	-	-	-	-
EU-27	0.1	-	-	-	-	▲ 0.0
ウクライナ	0.5	▲ 0.6	▲ 0.6	0.5	-	0.6
ロシア	3.0	0.9	0.7	0.4	-	1.7

○ 小麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	5.5	5.1	4.7	1.6	...	3.7
米国	-	-	-	-	-	-
カナダ	0.4	▲ 0.1	-	0.5	-	1.1
オーストラリア	▲ 3.0	-	-	▲ 1.0	-	▲ 2.0
EU-27	4.0	1.5	1.0	2.5	-	0.0
中国	-	-	-	-	-	▲ 0.2
インド	-	-	-	-	-	-
ロシア	3.0	1.5	1.5	0.5	▲ 0.1	0.6
アルゼンチン	▲ 1.0	-	-	▲ 1.0	-	-
ウクライナ	2.5	0.8	0.8	0.5	-	1.1

○ ソルガム

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.6	0.2	0.0	▲ 0.5	...	0.4
米国	0.4	0.3	0.3	-	-	0.1
アルゼンチン	-	0.3	0.3	▲ 0.5	-	0.3
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
中国	0.2	0.2	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	▲ 0.0

○ とうもろこし

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 6.6	▲ 3.2	▲ 3.6	▲ 2.8	...	▲ 2.4
米国	▲ 5.5	▲ 2.5	▲ 2.5	-	-	-
中国	3.0	1.0	1.0	-	-	2.0
アルゼンチン	▲ 3.0	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 2.0	-	-
ブラジル	-	-	-	-	-	1.1
EU-27	▲ 0.5	-	-	-	▲ 1.0	▲ 1.5

○ 米

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.2	1.2	...	0.5	...	▲ 0.3
中国	-	-	...	-	-	-
インド	1.0	0.5	...	-	-	0.5
インドネシア	-	-	...	-	-	▲ 0.6
タイ	0.7	0.1	...	0.5	-	0.9
ベトナム	-	0.1	...	-	-	0.1
フィリピン	▲ 0.8	0.2	...	-	0.3	▲ 1.3

資料：USDA

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移していることなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締めりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、米国、ロシア等で増産が見込まれ、世界全体では前年度より65.4百万トン増加（10.7%）し、676.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で5.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア、カナダ等が良好な天候等を反映して上方修正され、乾燥が続いているオーストラリアが下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より35.4百万トン増加（5.7%）し、654.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で5.1百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシアが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、9.3百万トン増加（8.2%）し、122.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリア、EU等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア、ウクライナ等の輸出量、モロッコ等の輸入量が上方修正され、オーストラリア、アルゼンチンの輸出量、エジプト、インドネシア、アルジェリアの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より21.4百万トン増加（18.1%）し、139.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も21.4%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、カナダ等が上方修正され、中国、オーストラリアで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	596.3	610.9	676.3	5.5	10.7
EU-27	124.9	119.4	147.2	4.0	23.3
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	78.4	-	3.4
米国	49.3	56.2	67.0	-	19.1
ロシア	44.9	49.4	60.0	3.0	21.5
カナダ	25.3	20.1	25.4	0.4	26.7
オーストラリア	10.8	13.0	22.0	▲ 3.0	68.7
消費量	616.9	619.5	654.9	5.1	5.7
うち飼料用	105.9	95.3	124.5	4.7	30.6
EU-27	125.5	118.1	132.5	1.5	12.2
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.9	77.6	-	2.3
ロシア	36.4	37.7	41.5	1.5	10.1
米国	31.0	29.0	35.2	-	21.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.2	113.6	122.9	1.6	8.2
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.6	16.5	17.5	0.5	6.1
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	▲ 1.0	87.4
EU-27	13.9	12.0	18.0	2.5	50.0
ロシア	10.8	12.2	14.0	0.5	14.6
アルゼンチン	10.5	10.0	7.5	▲ 1.0	▲ 25.0
ウクライナ	3.4	1.2	9.0	0.5	625.8
(輸入)					
エジプト	7.8	7.3	7.5	▲ 0.3	2.7
ブラジル	7.8	7.0	7.0	-	0.0
アルジェリア	5.5	4.9	5.5	▲ 0.1	12.7
インドネシア	5.0	5.6	5.3	▲ 0.3	▲ 4.9
日本	5.5	5.7	5.7	0.2	▲ 0.8
EU-27	5.1	7.0	5.0	-	▲ 28.6
モロッコ	2.4	1.8	4.7	0.7	161.0
期末在庫量	127.1	118.5	139.9	3.7	18.1
中国	38.5	41.5	46.6	▲ 0.2	12.1
米国	12.4	8.3	15.6	-	87.8
EU-27	14.0	10.3	12.0	0.0	16.4
オーストラリア	4.4	3.9	5.7	▲ 2.0	48.4
インド	4.5	6.4	7.2	-	11.7
ロシア	2.4	2.3	7.2	0.6	213.0
カナダ	6.8	4.8	5.4	1.1	12.5
期末在庫率	20.6%	19.1%	21.4%	0.4	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より10.8百万トン増加（19.1%）し、67.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.2百万トン増加（21.4%）し、35.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、7.3百万トン増加（87.8%）と大幅に積み増しされ、15.6百万トンとなり、期末在庫率も25.0%（11.9ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦は2008/09年度の収穫を終え、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。また、2009/10年度の作付けが始まり、主要18週での進捗は22%と過去5年の平均に比べ8ポイント（前年同時期に比べ2ポイント）遅くなっている。

春小麦の収穫率は97%となっており、過去5年の平均と同じ値であり、前年に比べ3ポイント遅れている。

作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度9.9%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.2%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	67.0	-	19.1
消費量	31.0	29.0	35.2	-	21.4
うち飼料用	3.3	0.8	6.8	-	739.5
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲20.9
輸入量	3.3	3.1	2.7	-	▲11.4
期末在庫量	12.4	8.3	15.6	-	87.8
期末在庫率	22.3%	13.1%	25.0%	0.0	11.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.90	-	10.9
単収(t/ha)	2.60	2.72	2.93	-	7.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

[生育進捗状況（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

冬小麦 作付率 22%（平年差：▲8 p、前年差：▲2 p）

春小麦 収穫率 97%（平年差：±0 p、前年差：▲3 p）

[作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、冬小麦の作柄については6月22日報告のデータ、春小麦の作柄については8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より5.3百万トン増加(26.7%)し、25.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加(29.1%)し、7.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.0百万トン増加(6.1%)し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加(12.5%)し、5.4百万トンとなり、期末在庫率も21.6%(0.1ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が上方修正されたことを受け、生産量が0.4百万トン上方修正されている。生産量の増加に伴い、輸出可能な小麦の量が増大するため、輸出量も0.5百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

春小麦は収穫の時期を迎えている。生育が遅れた2008/09年度は、早霜の影響が懸念されている。さらに、天候に恵まれず収穫作業が進んでいない地域もある。今後も主要産地の天候に注視が必要である。

カナダ西部の一部の地域では、雨天が続いたため冬小麦の収穫が進まず、小麦の品質が低下している。また、霜の被害を受ける可能性も高くなっている。2008年9月3日時点で、冬小麦の収穫率は全体の27%であり、平年の44%を大きく下回っている。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、前年度より9.0百万トン増加(68.7%)し、22.0百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大となると見込まれる。

消費量は、前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(87.4%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.8百万トン増加(48.4%)し、5.7百万トンとなり、期末在庫率も28.5%(0.1ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥が続いたことを受けて単収が下方修正され、生産量が3.0百万トン下方修正された。これに伴い輸出量が1.0百万トン下方修正され、期末在庫量も2.0百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

6月末から7月にかけて降水量が減少し、7月の最終週には降雨があったものの、8月初旬からウエスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州などの主要産地で乾燥が続いており土壌水分が生育に十分な量とはなっていない。冬小麦が今後受粉期を迎えるが、現状の予測を維持するためには、小麦生産地帯全域で今後の十分な降雨が必要である。引き続き天候に注視が必要である。

【我が国の輸入先国シェア2位(2007年数量ベース21.5%)
世界の生産量シェア 6位(2008/09年度 3.8%)
輸出量シェア 3位(2008/09年度14.2%)】

表-3 カナダの小麦需給(市場年度:8月~翌年7月)

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	25.4 (25.4)	0.4	26.7
消費量	8.8	5.9	7.6 (8.2)	▲ 0.1	29.1
うち飼料用	4.4	1.9	3.0 (3.8)	-	58.7
輸出量	19.6	16.5	17.5 (16.7)	0.5	6.1
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 14.3
期末在庫量	6.8	4.8	5.4 (4.5)	1.1	12.5
期末在庫率	23.9%	21.5%	21.6% (18.0%)	4.0	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.00 (9.96)	-	15.7
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.54 (2.55)	0.04	9.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (September 3, 2008)」

【我が国の輸入先国シェア3位(2007年数量ベース18.0%)
世界の生産量シェア 7位(2008/09年度 3.3%)
輸出量シェア 4位(2008/09年度11.4%)】

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度:10月~翌年9月)

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.0	22.0 (22.5)	▲ 3.0	68.7
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0
輸出量	8.7	7.5	14.0 (15.7)	▲ 1.0	87.4
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.4	3.9	5.7 (…)	▲ 2.0	48.4
期末在庫率	27.3%	28.3%	28.5% (…)	▲ 8.1	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	14.00 (13.55)	-	13.4
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.57 (1.66)	▲ 0.22	48.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より27.8百万トン増加(23.3%)し、147.2百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より14.4百万トン増加(12.2%)し、132.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから6.0百万トン増加(50.0%)し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.7百万トン増加(16.4%)し、12.0百万トンとなり、期末在庫率も8.0%(0.1ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積・単収ともに上方修正されたことを受け、生産量が4.0百万トン上方修正されている。特に、ドイツ、ポーランドでは乾燥懸念が深刻であったが、実際の収穫によって単収が予想以上に高い値であることが判明し、生産量の上方修正に寄与している。また、消費量は1.5百万トン上方修正された。輸出量は、生産量の増大によって輸出可能量が増大したことを受け、2.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

フランス、ドイツでは、雨が続いたことにより収穫が長引いていたが、無事に終了した。ドイツ、ポーランドは乾燥が続いていたが、予想よりも高い単収が得られている。また、雨により、ヨーロッパ北部での小麦の品質低下と、イギリス、アイルランドでの収穫遅れが生じている。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.1百万トン増加(12.1%)し、46.6百万トンとなり、期末在庫率も42.7%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.2百万トン下方修正されたことをうけ、2008/09年度の期末在庫量も0.2百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

中国における小麦の収穫は順調に終了しており、好天に恵まれたことから小麦の品質も高くなっている。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.8%)〕
〔輸出量シェア2位(2008/09年度14.6%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	147.2 (145.9)	4.0	23.3
消費量	125.5	118.1	132.5 (130.9)	1.5	12.2
うち飼料用	60.2	52.8	66.0 (59.0)	1.0	24.9
輸出量	13.9	12.0	18.0 (16.6)	2.5	50.0
輸入量	5.1	7.0	5.0 (6.5)	-	▲ 28.6
期末在庫量	14.0	10.3	12.0 (14.8)	0.0	16.4
期末在庫率	10.1%	7.9%	8.0% (10.0%)	▲ 0.2	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.72	26.70 (…)	0.10	8.0
単収(t/ha)	5.10	4.83	5.51 (…)	0.13	14.1

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.9%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.5)	-	3.8
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (3.0)	-	▲ 29.6
輸入量	0.4	0.1	0.0 (0.1)	-	▲ 40.0
期末在庫量	38.5	41.5	46.6 (…)	▲ 0.2	12.1
期末在庫率	36.7%	38.9%	42.7% (…)	▲ 0.2	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加（2.3%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から2.0百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン上昇（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より10.6百万トン増加（21.5%）し、60.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.8百万トン増加（10.1%）し、41.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.8百万トン増加（14.6%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.9百万トン増加（213.0%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も13.0%（8.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収の上方修正を受け、生産量が3.0百万トン上方修正された。消費量は1.5百万トン上方修正されている。輸出量も、生産量増大等の影響から、0.5百万トン上方修正されている。この結果、期末在庫率は0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の収穫は、9月2日時点で58.0%の進捗率となっている。収穫された小麦の品質は予想より低く、飼料用小麦の割合が増加する見込みである。

【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.6%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	-	3.4
消費量	73.4	75.9	77.6 (…)	-	2.3
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 入 量	6.7	2.0	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	11.7
期末在庫率	6.1%	8.4%	9.2% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	-	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 8.9%） 輸出量シェア4位（2008/09年度11.4%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	60.0 (55.0)	3.0	21.5
消費量	36.4	37.7	41.5 (…)	1.5	10.1
うち飼料用	14.1	15.1	18.0 (…)	1.5	19.6
輸 出 量	10.8	12.2	14.0 (13.0)	0.5	14.6
輸 入 量	0.9	0.4	0.4 (0.6)	▲ 0.1	▲ 9.1
期末在庫量	2.4	2.3	7.2 (…)	0.6	213.0
期末在庫率	5.0%	4.6%	13.0% (…)	0.7	8.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.60 (…)	0.50	8.6
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.26 (…)	0.08	11.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より3.5百万トン減少（▲21.9%）し、12.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから2.5百万トン減少（▲25.0%）し、7.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲53.4%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も3.2%（2.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥した天候が続いていることから収穫面積および単収が下方修正された影響を受け、生産量が1.0百万トン下方修正されている。また、生産量の修正に伴い、輸出量も1.0百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

乾燥が続いており、小麦の生育に悪影響が発生し始めている。また、気温の低下によって、霜の被害も発生している。引き続き天候への注視が必要である。

【貿易情報】

2008年4月から輸出登録手続きの再開を発表したが、輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等がストライキを実施。その後、同制度の関連法案は廃案となった。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より10.6百万トン増加（76.3%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加（8.5%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.8百万トン増加（625.8%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.6百万トン増加（103.9%）し3.1百万トンと増加し、期末在庫率は13.7%（2.8ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、好天に恵まれていることから収穫面積・単収が上方修正され、生産量が2.5百万トン上方修正された。消費量は、飼料用需要を中心に0.8百万トン上方修正された。輸出量も、生産量増大等の影響から、0.5百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の収穫は終了した。十分な降雨があったため、単収が増大し生産量が高い値を示しているが、小麦の品質が低下する結果となった。食用品質の小麦は、2007/08年度は小麦生産量全体の40%であったが、2008/09年度は11%にまで低下する見込みである。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 6.1%）

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.0	12.5 (13.0)	▲ 1.0	▲ 21.9
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	10.0	7.5 (8.6)	▲ 1.0	▲ 25.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	0.0
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.5)	-	▲ 53.4
期末在庫率	2.0%	5.7%	3.2% (3.8%)	0.2	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.29	5.68	4.50 (…)	▲ 0.20	▲ 20.8
単収(t/ha)	2.88	2.82	2.78 (…)	▲ 0.09	▲ 1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

（世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.3%）

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	24.5 (22.5)	2.5	76.3
消費量	11.7	12.9	14.0 (…)	0.8	8.5
うち飼料用	2.1	3.1	4.0 (…)	0.8	29.0
輸出量	3.4	1.2	9.0 (7.5)	0.5	625.8
輸入量	0.1	0.4	0.1 (0.1)	-	▲ 71.4
期末在庫量	1.4	1.5	3.1 (0.0)	1.1	103.9
期末在庫率	9.5%	10.9%	13.7% (…)	4.1	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.00 (…)	0.30	17.6
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.50 (…)	0.22	49.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

3 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要

○2008/09年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、EU、中国等で増加するものの、世界最大の生産・輸出国である米国において昨年度に拡大した作付けが今年度は縮小に転じ、生産量が減少することが見込まれることから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、米国でエタノール原料用需要、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、消費量が生産量を上回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、世界のとうもろこし需給は引き締まりを強めると見込まれる。

【生産量】

生産量は、EU、中国等で増加するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国において作付け縮小などにより減少が見込まれ、世界全体では前年度より7.2百万トン減少（▲0.9%）し、783.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で6.6百万トン下方修正されており、国別には米国が中西部での8月の乾燥天候を反映し、またアルゼンチンが農家の作付意欲の減退を反映し下方修正され、中国等が夏の豊富な降雨により上方修正された。

【消費量】

消費量は、米国でエタノール原料用需要、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より21.2百万トン増加（2.7%）し、796.5百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要の減少見込みは、米国での飼料用需要の減少が大きく影響している。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.2百万トン下方修正されており、国別には米国が下方修正、中国の飼料用需要が上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より10.7百万トン減少（▲11.1%）し、86.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の6割弱を占める米国で輸出量の減少が、生産の増加するウクライナ等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、EUで生産量の回復から輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.8百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチンとウクライナの輸出量、EU、メキシコ等の輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから、米国、中国等で取り崩され、世界全体では前年度より13.6百万トン減少（▲10.9%）し、109.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も13.8%（2.1ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.4百万トン下方修正されており、国別には米国、EU等が下方修正、中国等で上方修正された。

表-1 世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	712.2	790.2	783.0	▲6.6	▲0.9
米国	267.6	332.1	306.7	▲5.5	▲7.7
中国	151.6	151.8	156.0	3.0	2.7
ブラジル	51.0	58.6	57.0	-	▲2.7
EU-27	53.8	47.3	58.1	▲0.5	22.9
アルゼンチン	22.5	20.5	19.0	▲3.0	▲7.3
メキシコ	22.4	22.7	24.0	1.0	6.0
インド	15.1	19.3	18.0	-	▲6.8
消費量	728.3	775.3	796.5	▲3.2	2.7
うち飼料用	477.6	497.9	486.2	▲3.6	▲2.3
米国	230.8	264.0	270.4	▲2.5	2.4
中国	145.0	149.0	158.0	1.0	6.0
EU-27	62.3	61.5	61.0	-	▲0.8
ブラジル	41.0	42.5	45.0	-	5.9
メキシコ	30.7	32.0	33.0	-	3.1
インド	13.9	16.9	16.1	-	▲4.7
日本	16.5	16.5	16.1	-	▲2.4
貿易量	93.9	96.8	86.1	▲2.8	▲11.1
(輸出)					
米国	54.0	61.6	50.8	-	▲17.5
アルゼンチン	15.3	15.0	13.0	▲2.0	▲13.3
ブラジル	10.8	9.0	9.0	-	0.0
ウクライナ	1.0	2.0	3.0	▲0.5	50.0
南アフリカ	0.5	1.5	2.5	-	66.7
パラグアイ	2.2	1.5	1.5	-	0.0
インド	1.2	2.2	1.5	-	▲31.8
(輸入)					
日本	16.7	16.6	16.1	-	▲3.0
メキシコ	8.9	9.2	9.5	▲1.0	3.3
韓国	8.7	9.1	7.7	▲0.5	▲15.4
EU-27	7.1	13.0	3.0	▲1.0	▲76.9
台湾	4.3	4.2	4.2	-	0.0
エジプト	4.8	4.2	4.3	-	2.4
コロンビア	3.4	3.2	3.4	▲0.2	6.3
期末在庫量	108.5	123.5	109.9	▲2.4	▲10.9
中国	36.6	38.9	36.5	2.0	▲6.2
米国	33.1	40.0	25.9	▲2.9	▲35.4
ブラジル	3.6	11.4	14.9	1.1	30.6
EU-27	7.4	5.7	4.8	▲1.5	▲15.2
メキシコ	3.1	2.8	3.2	-	14.1
南アフリカ	1.7	3.3	2.9	▲0.6	▲12.3
ロシア	3.1	2.8	3.2	-	14.1
期末在庫率	14.9%	15.9%	13.8%	▲0.2	▲2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、連作障害への懸念や原油価格高騰等によるコスト高により、昨年度に大幅に拡大した作付けが縮小しており、前年度より25.4百万トン減少（▲7.7%）し、306.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料に用いられるとうもろこしの価格高騰による肉類生産の縮小に伴い飼料用需要の減少が見込まれる一方で、エタノール原料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.4百万トン増加（2.4%）し、270.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EUの輸入急減と米国以外の国の増産に伴う国際貿易市場での競争を背景として、前年度より10.8百万トン減少（▲17.5%）し、50.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より14.1百万トン減少（▲35.4%）と取り崩され、25.9百万トンとなり、期末在庫率も8.0%（4.2ポイント減）まで低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、中西部での8月の乾燥天候を反映して単収が下方修正されたことから生産量が5.5百万トン下方修正されており、その他、飼料用需要が下方修正されたことで消費量は2.5百万トン下方修正され、期末在庫量が2.9百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの主要18州の生育進捗状況については、全体の90%が黄熟期を迎えており、この春は気温が低く中西部の洪水に代表されるように雨も多く初期生育が遅れたことから、過去5年の平均に比べ5ポイント（前年に比べ8ポイント）ほど進捗が遅れている。成熟率は33%で、過去5年の平均に比べ30ポイント（前年に比べ43ポイント）ほど進捗が遅れている。収穫率は5%で、過去5年の平均に比べ9ポイント（前年に比べ15ポイント）ほど進捗が遅れている。

作柄については、優良～良が59%と前年度の最終（47%）は上回るものの、前年度の同時期（63%）に比べ下回っている。

これまで登熟期の天候は、乾燥傾向で推移したが、なお生育の遅れから秋の早霜などに遭う天候リスクなど、今後の天候に引き続き注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース 93.5%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 39.2%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度 59.0%）

表-2 米国のとうもろこし需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	267.6	332.1	306.7	▲ 5.5	▲ 7.7
消費量	230.8	264.0	270.4	▲ 2.5	2.4
うち飼料用	142.1	153.7	132.1	▲ 2.5	▲ 14.0
エタノール用	53.8	76.2	104.1	-	36.7
輸 出 量	54.0	61.6	50.8	-	▲ 17.5
輸 入 量	0.3	0.5	0.4	-	▲ 17.4
期末在庫量	33.1	40.0	25.9	▲ 2.9	▲ 35.4
期末在庫率	11.6%	12.3%	8.0%	▲ 0.8	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.59	35.02	32.09	-	▲ 8.4
単収(t/ha)	9.36	9.48	9.56	▲ 0.17	0.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

〔生育進捗状況〕

デント(黄熟)率 90%（平年差：▲5 p、前年差：▲8 p）
成熟率 33%（平年差：▲30 p、前年差：▲43 p）
収穫率 5%（平年差：▲9 p、前年差：▲15 p）

〔作柄〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2008/09	13	46	27	10	4
	前年度同時期	18	45	23	9	5
	前年度最終	12	35	28	15	10

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、日照と高い気温、豊富な降雨に恵まれ前年度より4.2百万トン増加(2.7%)し、156.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要を中心に前年度より9.0百万トン増加(6.0%)し、158.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より2.4百万トン減少(▲6.2%)し、36.5百万トンとなり、期末在庫率も23.0%(3.0ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、良好な天候を反映して生産量が3.0百万トン上方修正されたことから、消費量が1.0百万トン、期末在庫量が2.0百万トンそれぞれ上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のとうもろこしは、主要産地である北東部地域でおおむね天候に恵まれ、豊作が期待されている。なお、黒竜江省では8月初旬に一部地域が降雨不足に見舞われたものの、8月下旬に人工降雨で緩和され、生産への影響は大幅に縮小した。また、北部地域の河北省、山東省及び黒竜江省は深刻な虫害により生育に影響が出る可能性がある。

春とうもろこしは市場に出回り始め、秋とうもろこしは収穫期を迎える。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課している。

ウ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、肥料価格の高騰をはじめとした生産コスト高などが農家の生産意欲を抑え、大豆等の作付けにシフトしたことや長引く干ばつの影響から収穫面積は減少することから、前年度より1.5百万トン減少(▲7.3%)し、19.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に伴い前年度より0.8百万トン減少(▲12.3%)し、5.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから前年度より2.0百万トン減少(▲13.3%)し、13.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.3百万トン増加(45.5%)し、1.0百万トンとなり、期末在庫率も5.1%(2.1ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が3.0百万トン、消費量が1.0百万トン、輸出量が2.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンのとうもろこしの作付けは、9月から始まった。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年2月に再開されたが、3月から9月までに13.0百万トンが輸出されたとみられ、9月中旬頃から輸出登録を停止した。再開時期は未定となっている。なお、輸出業者が輸出税を前払いすれば、申告から120日以内に出荷、船積みすれば良いこととなっている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース 3.9%)
世界の生産量シェア 2位 (2008/09年度 19.9%)

表-3 中国のとうもろこし需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.6	151.8	156.0 (156.0)	3.0	2.7
消費量	145.0	149.0	158.0 (156.7)	1.0	6.0
うち飼料用	104.0	105.0	113.0 (106.0)	1.0	7.6
輸出量	5.3	0.6	0.5 (0.5)	-	▲16.7
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.2)	-	100.0
期末在庫量	36.6	38.9	36.5 (47.2)	2.0	▲6.2
期末在庫率	24.4%	26.0%	23.0% (…)	1.1	▲3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.90	28.00	27.80 (…)	-	▲0.7
単収(t/ha)	5.43	5.42	5.61 (…)	0.11	3.5

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (29 August 2008)]

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース 2.3%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 2.4%)
輸出量シェア 2位 (2008/09年度 15.1%)

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給
(市場年度:翌年3月~翌々年2月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.5	20.5	19.0 (21.0)	▲3.0	▲7.3
消費量	6.7	6.5	5.7 (6.4)	▲1.0	▲12.3
うち飼料用	4.8	4.6	3.8 (4.6)	▲1.0	▲17.4
輸出量	15.3	15.0	13.0 (14.6)	▲2.0	▲13.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	…
期末在庫量	1.7	0.7	1.0 (0.6)	-	45.5
期末在庫率	7.5%	3.1%	5.1% (2.6%)	0.7	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.80	3.21	2.70 (…)	▲0.30	▲15.9
単収(t/ha)	8.04	6.39	7.04 (…)	▲0.29	10.2

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (29 August 2008)]

エ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、価格高騰等から作付けの増加が見込まれているものの、記録的な豊作だった前年度より単収の低下が見込まれることから、前年度より1.6百万トン減少（▲2.7%）し、57.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より2.5百万トン増加（5.9%）し、45.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より3.5百万トン増加（30.6%）し、14.9百万トンとなり、期末在庫率も27.7%（5.5ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の実生産量が1.1百万トン上方修正されたことから、期末在庫量が1.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの夏とうもろこしの作付けは10月下旬から本格化する。

なお、2007/08年度の冬とうもろこしは、天候がおおむね良好に推移し、収穫は順調に終了した。

オ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、おおむね良好な天候に恵まれ、昨年度の干ばつの影響を受けたハンガリー、ルーマニア等の単収の回復などから前年度より10.8百万トン増加（22.9%）し、58.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、小麦の生産回復により飼料用需要が減少することから前年度より0.5百万トン減少（▲0.8%）し、61.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量の回復などから前年度より10.0百万トン減少（▲76.9%）し、3.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから前年度より0.9百万トン減少（▲15.2%）し、4.8百万トンとなり、期末在庫率も7.8%（1.4ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が上方修正された反面、単収が下方修正されたため生産量が0.5百万トン、加えて輸入量が1.0百万トンそれぞれ下方修正されたことから期末在庫量が1.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

フランスでは、主産地の南西部で天候に恵まれたことから、おおむね良好な作柄が予想されている。ルーマニアやブルガリアなどEU南東部では、8月に乾燥し降水量が不足したことから作柄低下が懸念されるが、他のEU諸国においては、おおむね良好な作柄が見込まれている。

（世界の生産量シェア4位（2008/09年度 7.3%）
輸出量シェア3位（2008/09年度 10.5%））

表-5 ブラジルのとうもろこし需給

（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	58.6	57.0 (55.0)	-	▲ 2.7
消費量	41.0	42.5	45.0 (…)	-	5.9
うち飼料用	34.5	36.0	38.0 (…)	-	5.6
輸 出 量	10.8	9.0	9.0 (10.0)	-	0.0
輸 入 量	1.4	0.8	0.5 (0.5)	-	▲ 33.3
期末在庫量	3.6	11.4	14.9 (…)	1.1	30.6
期末在庫率	6.9%	22.2%	27.7% (…)	2.1	5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.00	14.70	14.80 (…)	▲ 0.20	0.7
単収(t/ha)	3.64	3.99	3.85 (…)	0.05	▲ 3.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度 7.4%））

表-6 EU-27のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	53.8	47.3	58.1 (60.6)	▲ 0.5	22.9
消費量	62.3	61.5	61.0 (62.1)	-	▲ 0.8
うち飼料用	48.7	48.5	47.0 (47.5)	-	▲ 3.1
輸 出 量	0.7	0.5	1.0 (0.5)	-	100.0
輸 入 量	7.1	13.0	3.0 (3.5)	▲ 1.0	▲ 76.9
期末在庫量	7.4	5.7	4.8 (8.2)	▲ 1.5	▲ 15.2
期末在庫率	11.7%	9.2%	7.8% (13.0%)	▲ 2.4	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.49	8.38	8.75 (…)	0.04	4.4
単収(t/ha)	6.34	5.65	6.65 (…)	▲ 0.08	17.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2008/09年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、生産の拡大ととうもろこし価格の高騰の影響を受け、飼料用需要の回復が見られ、消費量の増加も見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われると見込まれる。

【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲やこれまでの天候が比較的良好に推移したことなどから、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、ウクライナ、ロシア等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より16.7百万トン増加（12.6%）し、149.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.1百万トン上方修正されており、国別にはロシア、ウクライナ等が良好な天候等を反映して上方修正されているが、オーストラリアでは乾燥が続いていることから下方修正されている。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にロシア、EU、カナダ等主要消費国で増加が見込まれ、世界全体では前年度より6.1百万トン増加（4.5%）し、142.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはロシアが上方修正され、ウクライナが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、3.2百万トン増加（20.7%）し、19.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産の回復が見込まれているウクライナ、ロシア等で輸出量の増加が見込まれているが、カナダ、EUで減少が見込まれている。輸入国では、イラン等で輸入量が増加すると見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界で0.2百万トン上方修正されている。国別にはウクライナ、ロシア等の輸出量、サウジアラビア、イランの輸入量が上方修正されており、オーストラリア、カザフスタンの輸出量が下方修正されている。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、EU、米国、オーストラリア等で積み増しされ、世界全体では前年度より7.7百万トン増加（43.6%）し、25.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は17.9%（4.9ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.4百万トン上方修正されており、国別にはロシア、サウジアラビア等が上方修正され、オーストラリアが下方修正された。

表－1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.4	133.2	149.9	3.1	12.6
EU-27	56.2	57.7	62.8	0.1	8.8
ロシア	18.1	15.7	21.0	3.0	34.2
カナダ	9.6	11.0	10.9	0.4	▲ 0.9
ウクライナ	11.4	6.0	12.5	0.5	108.3
オーストラリア	4.3	5.9	7.5	▲ 1.0	26.7
トルコ	7.5	6.0	6.0	-	0.0
米国	3.9	4.6	4.7	-	2.9
消費量	145.2	136.1	142.2	0.3	4.5
うち飼料用	100.9	92.0	97.0	0.6	5.4
EU-27	55.9	54.4	55.5	-	2.0
ロシア	16.4	15.1	16.8	0.9	11.6
カナダ	10.2	7.9	9.0	-	14.4
トルコ	7.3	6.7	6.5	-	▲ 3.0
サウジアラビア	6.8	6.9	6.9	-	0.0
ウクライナ	6.5	5.3	5.7	▲ 0.6	7.5
米国	4.6	4.4	4.6	-	3.6
貿易量	15.3	15.8	19.0	0.2	20.7
(輸出)					
EU-27	3.5	4.0	3.5	-	▲ 12.5
ウクライナ	5.1	1.0	5.5	0.5	426.8
オーストラリア	1.9	3.5	3.5	▲ 0.5	0.0
カナダ	1.2	3.1	1.6	-	▲ 48.4
ロシア	1.5	1.3	2.5	0.4	92.3
カザフスタン	0.6	0.6	0.6	▲ 0.2	0.0
アルゼンチン	0.5	0.8	1.2	-	43.8
(輸入)					
サウジアラビア	6.7	7.0	7.3	0.3	4.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	3.7
中国	1.1	1.2	1.3	-	8.3
イラン	0.4	0.7	1.5	0.3	114.3
モロッコ	0.4	0.7	1.0	-	42.9
シリア	0.3	0.3	0.9	-	183.3
チュニジア	0.7	0.5	0.7	-	40.0
期末在庫量	20.7	17.7	25.4	4.4	43.6
EU-27	5.6	5.2	9.1	▲ 0.0	74.3
米国	1.5	1.5	1.7	-	11.7
オーストラリア	1.3	0.6	0.7	▲ 0.5	17.9
サウジアラビア	2.4	2.5	2.9	0.9	15.6
ロシア	1.2	0.7	2.6	1.7	261.7
カナダ	1.5	1.6	2.0	0.9	25.4
ウクライナ	1.0	0.7	2.0	0.6	198.9
期末在庫率	14.2%	13.0%	17.9%	3.1	4.9

資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、単収が増大した結果、生産量は前年度より1.6百万トン増加(26.7%)し、7.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の増加の影響を受け、0.7百万トン増加(23.8%)し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度の同程度の3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.1百万トン増加(17.9%)し0.7百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は8.9%(0.5ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂としては、主要生産地で乾燥が続いたことから単収が下方修正され、生産量も1.0百万トン下方修正された。また、生産量の下方修正を受けて輸出量が0.5百万トンとなり、期末在庫量も0.5百万トンそれぞれ下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

6月末から7月にかけて降水量が減少、7月の最終週には降雨があったものの、8月初旬から乾燥が続いており土壌水分が生育に十分な量とはなっていない。現状の予測を維持するためには、今後の十分な降雨が必要である。引き続き天候に注視が必要である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、単収が前年度より上昇すると見込まれるものの、収穫面積が小麦と大豆の作付拡大の影響を受けて減少することから、前年度より0.1百万トン減少(▲0.9%)し、10.9百万トンとなると見込まれている。

消費量は、飼料用大麦の消費が1.0百万トン増加(15.7%)することなどを受け、消費量全体は前年度より1.1百万トン増加(14.4%)し、9.0百万トンとなる見込みである。

飼料用大麦の輸出が大幅に減少することにより、輸出量は前年度より1.5百万トン減少(▲48.4%)し、1.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン増加(25.4%)し2.0百万トンとなり、期末在庫率は18.6%(4.3ポイント増)と見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂として、生産量が0.4百万トン上方修正されている。また、2007/08年度の期末在庫量が上方修正されたこと、および生産量の増大によって、期末在庫量は0.9百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

大麦の収穫は順調に進んでおり、ほぼ収穫が終了した地域もある。カナダ南西部の穀物産地の大部分では、6月の気温は平年よりも低く、雨が多かったため作物の生育が心配されたが、その後好天に恵まれており順調に生育している。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2007年数量ベース41.0%)
世界の生産量シェア 5位 (2008/09年度 5.0%)
輸出量シェア 2位 (2008/09年度18.4%)

表-2 オーストラリアの大麦需給 (市場年度: 11月~翌年10月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.3	5.9	7.5 (7.8)	▲ 1.0	26.7
消費量	3.8	3.2	3.9 (2.5)	-	23.8
うち飼料用	2.9	2.2	2.9 (2.1)	-	31.8
輸出量	1.9	3.5	3.5 (5.1)	▲ 0.5	0.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	1.3	0.6	0.7 (…)	▲ 0.5	17.9
期末在庫率	22.8%	8.4%	8.9% (…)	▲ 5.8	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.18	4.41	4.50 (4.51)	-	2.0
単収(t/ha)	1.02	1.34	1.67 (1.74)	▲ 0.22	24.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース14.5%)
世界の生産量シェア 4位 (2008/09年度 7.3%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度 8.4%)

表-3 カナダの大麦需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.6	11.0	10.9 (10.9)	0.4	▲ 0.9
消費量	10.2	7.9	9.0 (8.5)	-	14.4
うち飼料用	8.9	6.6	7.6 (7.9)	-	15.7
輸出量	1.2	3.1	1.6 (2.3)	-	▲ 48.4
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.0)	-	100.0
期末在庫量	1.5	1.6	2.0 (1.1)	0.9	25.4
期末在庫率	13.1%	14.3%	18.6% (10.2%)	8.8	4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.22	4.00	3.40 (3.4)	0.10	▲ 15.0
単収(t/ha)	2.97	2.75	3.21 (3.2)	0.03	16.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grains and Oilseeds Outlook (September 3, 2008)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.1百万トン増加（2.9%）増加し、4.7百万トンとなる見込みである。

消費量は前年度より0.2百万トン増加（3.6%）し、4.6百万トンとなる見込みである。飼料用の消費は0.4百万トン増加（45.8%）している。

輸出量は、前年度より0.4百万トン減少（▲39.7%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.2百万トン増加（11.7%）し1.7百万トンとなり、期末在庫率は前年度より4.5ポイント上昇し、32.4%となる見込みである。

前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の大麦の主要5州は収穫期の終わりを迎え、収穫率は94%となっている。過去5年の平均に比べ4ポイント（前年に比べ6ポイント）低くなっている。生育期に気温が低かったため成熟が遅れており、その結果収穫の進捗に影響が出ている。

また、作柄については、優良が8%と前年度最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

（我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース36.2%）
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 3.2%）

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.9	4.6	4.7	-	2.9
消費量	4.6	4.4	4.6	-	3.6
うち飼料用	1.1	0.7	1.1	-	45.8
輸 出 量	0.4	0.9	0.5	-	▲ 39.7
輸 入 量	0.3	0.7	0.5	-	▲ 20.9
期末在庫量	1.5	1.5	1.7	-	11.7
期末在庫率	29.8%	27.9%	32.4%	-	4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.19	1.42	1.47	-	3.5
単収(t/ha)	3.29	3.25	3.22	-	▲ 0.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大麦の生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

〔生育進捗状況（主要5州）〕

収穫率 94%（平年差：▲ 4 p、前年差：▲ 6 p）

〔作柄（主要5州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2008/09	8	44	34	10	4
	前年度同時期	9	53	21	9	8
	前年度最終	9	53	21	9	8

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

作柄は8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、収穫面積の増大および単収の増加を受け、前年度より5.1百万トン増加（8.8%）し、62.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の消費増大により、前年度より1.1百万トン増加（2.0%）し、55.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、ロシア、ウクライナとの競合が激しく、前年度より0.5百万トン減少（▲12.5%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より3.9百万トン増加（74.3%）し9.1百万トンとなり、期末在庫率は15.5%（6.5ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.1百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

収穫期の終わりを迎え、生育期に良好な天候に恵まれたフランスでは高品質の大麦が、多く収穫されている。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実生産量は、収穫面積は横ばいであるものの良好な天候により単収が干ばつ被害のあった前年度から大幅に改善することをうけ、前年度より6.5百万トン増加（108.3%）し、12.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.4百万トン増加（7.5%）し、5.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より4.5百万トン増加（426.8%）し、5.5百万トンとなる見込みである。前年度の落ち込みから、2年度前の水準にまで改善している。

輸出量の大幅な増加があるものの、生産量も大幅に増加しているため、期末在庫量は前年度より1.3百万トン増加（198.9%）し2.0百万トンとなり、期末在庫率は前年度より7.3ポイント増加し、17.8%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が上方修正され、生産量が0.5百万トン上方修正されている。また、消費量は0.6百万トン下方修正され、輸出量は0.5百万トン、期末在庫量は0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナにおける大麥の収穫は終了した。

ウクライナでは、7月23日～26日に発生した雷雨等により洪水が発生したが被害は少なく、大麥の作付面積のうち99%で収穫が行われた。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の生産量シェア1位（2008/09年度41.9%）
輸出量シェア2位（2008/09年度18.4%））

表－5 EU-27の大麥需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	56.2	57.7	62.8 (64.2)	0.1	8.8
消費量	55.9	54.4	55.5 (58.3)	-	2.0
うち飼料用	40.0	38.5	39.0 (42.8)	-	1.2
輸出量	3.5	4.0	3.5 (4.1)	-	▲ 12.5
輸入量	0.2	0.3	0.1 (0.3)	-	▲ 64.9
期末在庫量	5.6	5.2	9.1 (7.3)	▲ 0.0	74.3
期末在庫率	9.5%	9.0%	15.5% (11.7%)	▲ 0.0	6.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.8	13.8	14.5 (…)	▲ 0.03	4.6
単収(t/ha)	4.06	4.18	4.34 (…)	0.01	3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」より農林水産省試算

（世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 8.3%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度28.9%））

表－6 ウクライナの大麥需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.4	6.0	12.5 (11.5)	0.5	108.3
消費量	6.5	5.3	5.7 (…)	▲ 0.6	7.5
うち飼料用	4.8	3.6	4.0 (…)	▲ 0.6	11.1
輸出量	5.1	1.0	5.5 (4.0)	0.5	426.8
輸入量	0.0	0.1	0.0 (…)	-	▲ 50.0
期末在庫量	1.0	0.7	2.0 (…)	0.6	198.9
期末在庫率	8.3%	10.5%	17.8% (…)	5.3	7.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	4.10	4.10 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.18	1.46	3.05 (…)	0.12	108.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より5.3百万トン増加（34.2%）し、21.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の消費量が増えたことなどから、全体で前年度より1.7百万トン増加（11.6%）し、16.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より1.2百万トン増加（92.3%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、生産量の増大が消費量、輸出量の増大分を上回ったことから、1.9百万トン増加（261.7%）し2.6百万トンとなり、期末在庫率は13.6%（9.2ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂としては、単収の上方修正を受け、生産量が3.0百万トン上方修正された。また、消費量は0.9百万トン上方修正されている。さらに、輸出量が0.4百万トン、期末在庫量が1.7百万トンそれぞれ上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

9月2日時点での収穫率は76.3%となっている。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

〔世界の生産量シェア 2位（2007/08年度14.0%）
輸出量シェア 4位（2008/09年度13.1%）〕

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	(単位:百万トン)
生産量	18.1	15.7	21.0 (18.0)	3.0	34.2	
消費量	16.4	15.1	16.8 (…)	0.9	11.6	
うち飼料用	11.8	10.5	12.0 (…)	0.7	14.8	
輸出量	1.5	1.3	2.5 (1.7)	0.4	92.3	
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	0.0	
期末在庫量	1.2	0.7	2.6 (…)	1.7	261.7	
期末在庫率	6.8%	4.4%	13.6% (…)	8.5	9.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.00	9.80	9.60 (…)	-	▲ 2.0	
単収(t/ha)	1.81	1.60	2.19 (…)	0.31	36.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

5 ソルガム

(1) 国際的なソルガム需給の概要

○2008/09年度のソルガム需給（予測）のポイント

ソルガムの供給面では、世界の主要な生産・輸出国である米国等の減少から、世界の生産量も減少が見込まれている。

需要面では、EU等で昨年度に急増した飼料用需要が小麦の生産回復により減少することが見込まれるため、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから増加し、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、アルゼンチン等で増加するものの、世界の主要な生産・輸出国である米国等の減少から、世界全体では前年度より1.3百万トン減少（▲2.1%）し、62.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別には米国が上方修正された。

【消費量】

消費量は、米国等で増加するものの、EU等で昨年度に飼料用小麦の代替として急増した需要が小麦等の生産回復により減少することが見込まれるため、世界全体では前年度より2.0百万トン減少（▲3.1%）し、61.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別には米国が上方修正、EUが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より4.1百万トン減少（▲45.0%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の6割を占める米国で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、EUで飼料用需要の減少から輸入量の減少が、メキシコ等で増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチンの輸出量、EUの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より0.5百万トン増加（13.6%）し、4.7百万トンとなり、期末在庫率は7.7%（1.1ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.4百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチンが上方修正、インドがわずかに下方修正された。

表-1 世界のソルガム需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.0	63.4	62.1	0.6	▲ 2.1
米国	7.1	12.8	10.8	0.4	▲ 15.7
ナイジェリア	10.5	10.0	10.5	-	5.0
インド	7.2	7.8	6.5	-	▲ 16.5
メキシコ	5.8	6.1	6.2	-	1.6
スーダン	5.2	4.5	4.7	-	4.4
アルゼンチン	3.3	2.9	4.3	-	48.3
エチオピア	3.3	3.2	3.3	-	2.2
消費量	57.2	63.5	61.5	0.2	▲ 3.1
うち飼料用	21.9	28.8	26.4	0.0	▲ 8.1
ナイジェリア	10.5	10.0	10.5	-	5.0
メキシコ	8.1	7.1	7.4	-	4.2
インド	7.1	7.8	6.5	-	▲ 15.9
米国	4.0	5.3	7.1	0.3	33.4
スーダン	5.0	5.2	5.0	-	▲ 4.3
エチオピア	3.1	3.2	3.3	-	2.9
EU-27	1.1	5.9	1.8	▲ 0.5	▲ 69.8
貿易量	5.5	9.1	5.0	▲ 0.5	▲ 45.0
(輸出)					
米国	3.9	7.0	3.3	-	▲ 52.7
アルゼンチン	1.1	1.1	0.9	▲ 0.5	▲ 18.2
オーストラリア	0.0	0.3	0.2	-	▲ 33.3
ブラジル	0.2	0.2	0.3	-	33.3
中国	0.1	0.3	0.2	-	▲ 40.0
ナイジェリア	0.1	0.1	0.1	-	0.0
インド	0.0	0.0	0.0	-	▲ 16.7
(輸入)					
EU-27	0.7	5.5	1.0	▲ 0.5	▲ 81.8
メキシコ	2.0	1.1	1.3	-	18.2
日本	1.3	1.2	1.4	-	17.4
スーダン	0.3	0.3	0.3	-	0.0
チリ	0.1	0.1	0.2	-	18.1
イスラエル	0.1	0.2	0.1	-	▲ 33.3
ニジェール	0.1	0.1	0.1	-	0.0
期末在庫量	4.3	4.2	4.7	0.4	13.6
米国	0.8	1.3	1.7	0.1	29.9
スーダン	1.0	0.5	0.5	-	▲ 0.9
エチオピア	0.4	0.4	0.4	-	▲ 5.9
アルゼンチン	0.3	0.1	0.6	0.3	344.8
メキシコ	0.2	0.3	0.4	-	31.5
ナイジェリア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
インド	0.2	0.2	0.2	▲ 0.0	▲ 23.7
期末在庫率	7.5%	6.6%	7.7%	0.7	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」

(2) ソルガムの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、面積及び単収の減少から前年度より2.0百万トン減少（▲15.7%）し、10.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用とうもろこしの価格高騰に伴い、ソルガムの飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より1.8百万トン増加（33.4%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少とEUの輸入量の減少から前年度より3.7百万トン減少（▲52.7%）し、3.3百万トンとなる見込みである。

この結果、生産が消費と輸出を上回ることから期末在庫量は前年度より0.4百万トン増加（29.9%）し、1.7百万トンとなり、期末在庫率は16.5%（5.8ポイント増）まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、カンザス州やテキサス州など主要産地で8月に適度な降雨があり単収が上方修正されたことから生産量が0.4百万トン、消費量が0.3百万トン、期末在庫量が0.1百万トンそれぞれ上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のソルガムの主要11州の生育進捗状況については、この春は気温が低く推移したことから初期生育が遅れたことが影響し、着色率は80%で、過去5年の平均に比べ6ポイント（前年に比べ16ポイント）の遅れとなっている。成熟率は43%で、過去5年の平均に比べ9ポイント（前年に比べ17ポイント）の遅れとなっている。収穫率は32%で、過去5年の平均に比べ4ポイント（前年に比べ9ポイント）の遅れとなっている。

作柄については、優良が8%と前年度の同時期や最終に比べ低く、優良～普通までの合計でも86%と前年度の最終の91%を下回っている。

なお、主産地のテキサス州等では収穫前のソルガムが9月中旬に襲来したハリケーン「アイク」の直撃を受けたことから、今後の品質低下が心配される。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース 57.1%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 17.4%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度 66.0%）

表-2 米国のソルガム需給（市場年度：9月～翌年8月）

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	12.8	10.8	0.4	▲ 15.7
消費量	4.0	5.3	7.1	0.3	33.4
うち飼料用	2.9	4.4	5.3	0.3	20.0
輸出量	3.9	7.0	3.3	-	▲ 52.7
輸入量	0.0	0.0	0.0	-	▲ 100.0
期末在庫量	0.8	1.3	1.7	0.1	29.9
期末在庫率	10.3%	10.7%	16.5%	0.9	5.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.00	2.75	2.61	-	▲ 5.1
単収(t/ha)	3.53	4.66	4.15	0.15	▲ 10.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国ソルガムの生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

〔生育進捗状況〕

着色率 80%（平年差：▲6 p、前年差：▲16 p）
成熟率 43%（平年差：▲9 p、前年差：▲17 p）
収穫率 32%（平年差：▲4 p、前年差：▲9 p）

〔作柄〕

単位: %

		優良	良	普通	不良	極不良
ソルガム	2008/09	8	45	33	11	3
	前年度同時期	15	48	27	8	2
	前年度最終	15	49	27	7	2

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、面積及び単収の増加から前年度より1.4百万トン増加（48.3%）し、4.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加から前年度より0.9百万トン増加（45.0%）し、2.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン減少（▲18.2%）し、0.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量を上回ることから前年度より0.5百万トン増加（344.8%）し、0.6百万トンとなり、期末在庫率も17.0%（12.3ポイント増）と大幅に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.3百万トン上方修正され、輸出量が0.5百万トン下方修正されたことから期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンのソルガムの作付けは、10月頃から始まる。

なお、2007/08年度の収穫はすべての産地で終了している。

ウ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、面積は減少するものの、良好な天候を反映して単収が増加することから前年度より0.1百万トン増加（5.3%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.9%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲40.0%）し、0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より5.5万トン増加（100.0%）し、11万トンとなり、期末在庫率も5.6%（2.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正により生産量が0.2百万トン上方修正されたことに伴い、消費量も0.2百万トン上方修正された。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課している。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース 31.2%）〕
〔世界の輸出量シェア 2位（2008/09年度 18.0%）〕

表－3 アルゼンチンのソルガム需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.3	2.9	4.3 (4.0)	-	48.3
消費量	2.0	2.0	2.9 (2.9)	0.3	45.0
うち飼料用	1.8	1.8	2.7 (2.6)	0.3	50.0
輸出量	1.1	1.1	0.9 (1.1)	▲ 0.5	▲ 18.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	0.3	0.1	0.6 (0.2)	0.3	344.8
期末在庫率	11.2%	4.7%	17.0% (3.8%)	7.6	12.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.62	0.61	0.83 (...)	-	36.4
単収(t/ha)	5.32	4.79	5.21 (...)	-	8.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

〔我が国の輸入先国シェア3位（2007年数量ベース 11.6%）〕
〔世界の輸出量シェア5位（2008/09年度 3.0%）〕

表－4 中国のソルガム需給
（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.0	1.9	2.0 (2.0)	0.2	5.3
消費量	2.0	1.7	1.8 (...)	0.2	5.9
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (...)	-	0.0
輸出量	0.1	0.3	0.2 (0.1)	-	▲ 40.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	0.1	0.1	0.1 (...)	-	100.0
期末在庫率	4.5%	2.8%	5.6% (...)	▲ 0.6	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.57	0.55	0.50 (...)	-	▲ 9.1
単収(t/ha)	3.53	3.45	4.00 (...)	0.40	15.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

エ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、夏の降雨に恵まれ豊作だった前年度に比べ単収の減少が見込まれることから前年度より0.7百万トン減少（▲25.7%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.6百万トン減少（▲24.6%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少から前年度より0.1百万トン減少（▲33.3%）し、0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.5万トン減少（▲12.2%）し、3.6万トンとなり、期末在庫率も1.8%（0.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのソルガムの作付けは、9月頃から始まっている。

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、面積及び単収の減少が見込まれることから、前年度より1.3百万トン減少（▲16.5%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、生産量の減少に伴い、前年度より1.3百万トン減少（▲15.9%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率も2.7%（0.3ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸出量が上方修正されたことに伴い、期首在庫量が下方修正されたことから期末在庫量がわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのソルガムの9月4日現在の作付け進捗状況は、モンスーン期の雨が少なかったことなどから、前年同期より55万ha少ない（▲16.4%）、280万haとなっている。

（世界の輸出量シェア 4位（2008/09年度 4.0%））

表-5 オーストラリアのソルガム需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1.3	2.7	2.0 (2.0)	-	▲ 25.7
消費量	1.2	2.4	1.8 (1.5)	-	▲ 24.6
うち飼料用	1.2	2.4	1.8 (1.5)	-	▲ 24.6
輸出量	0.0	0.3	0.2 (0.4)	-	▲ 33.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 12.2
期末在庫率	3.4%	1.5%	1.8% (…)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.61	0.80	0.80 (0.77)	-	0.0
単収(t/ha)	2.09	3.36	2.50 (2.59)	-	▲ 25.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (16 September 2008)」

（世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 10.5%））

表-6 インドのソルガム需給（市場年度：11月～翌年10月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	7.8	6.5 (6.5)	-	▲ 16.5
消費量	7.1	7.8	6.5 (…)	-	▲ 15.9
うち飼料用	1.2	1.5	1.2 (…)	-	▲ 20.0
輸出量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 16.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (…)	▲ 0.0	▲ 23.7
期末在庫率	3.5%	3.0%	2.7% (…)	▲ 0.1	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.51	8.40	7.50 (…)	-	▲ 10.7
単収(t/ha)	0.84	0.93	0.87 (…)	-	▲ 6.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (29 August 2008)」

6 米

(1) 国際的な米需給の概要

○2008/09年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、バングラディッシュ、インドネシア、中国等で増産される見込みであり、世界の生産量も増加が見込まれている。

需要面では、インド、インドネシア、中国等で消費量が拡大し、世界の消費量も増加が見込まれている。

期末在庫量については、昨年引き続き生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、バングラディッシュ、インドネシア、中国等で増加し、世界全体では前年度より2.5百万トン増加（0.6%）し、432.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正され、国別にはインド、タイ等で上方修正された。

【消費量】

消費量は、インド、フィリピン、インドネシア等で増加し、世界全体では前年度より1.7百万トン増加（0.4%）し、428.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正され、国別はインド、バングラディッシュ等で上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.0百万トン減少（▲6.9%）し、28.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではインド、タイ等で輸出量の減少が、ベトナム、エジプト等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、フィリピン、EU、サウジアラビア等で輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはタイ等の輸出量が、フィリピン等の輸入量がそれぞれ上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で積み増しされ、世界全体では前年度より3.1百万トン増加（4.0%）し、80.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も18.7%まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン下方修正されており、国別ではフィリピン、インドネシア等で下方修正された。

表－1 世界の米需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	419.9	429.5	432.0	1.2	0.6
中国	127.2	129.8	130.6	-	0.5
インド	93.4	96.4	97.0	1.0	0.6
インドネシア	35.3	35.5	36.3	-	2.1
バングラディッシュ	29.0	28.6	29.4	-	2.8
ベトナム	22.9	24.1	23.7	-	▲1.8
タイ	18.3	19.3	19.5	0.7	1.0
フィリピン	9.8	10.1	10.2	▲0.8	1.2
消費量	420.6	427.2	428.9	1.2	0.4
中国	127.2	127.3	127.7	-	0.2
インド	86.9	90.8	93.5	0.5	3.0
インドネシア	35.9	36.4	36.9	-	1.4
バングラディッシュ	29.8	30.6	30.6	0.3	0.0
ベトナム	18.8	19.0	19.2	0.1	1.2
フィリピン	12.0	12.6	13.2	0.2	4.8
ミャンマー	10.7	10.3	9.7	-	▲6.1
貿易量 (輸出)	31.3	30.3	28.3	0.5	▲6.9
タイ	9.6	10.0	9.5	0.5	▲5.0
ベトナム	4.5	4.8	5.2	-	9.5
パキスタン	2.8	3.0	3.2	-	5.0
米国	2.9	3.5	3.5	-	2.0
インド	5.5	4.1	2.0	-	▲51.2
中国	1.3	1.0	1.1	-	10.0
エジプト	1.2	0.5	0.8	-	77.8
(輸入)					
フィリピン	1.8	2.0	2.5	0.3	25.0
ナイジェリア	1.6	1.6	1.6	-	0.0
EU-27	1.2	1.1	1.2	-	9.1
サウジアラビア	1.4	1.0	1.0	-	5.9
イラン	0.9	0.9	0.9	-	0.0
イラク	0.6	0.9	0.9	-	0.0
マレーシア	0.9	0.8	0.9	-	10.0
期末在庫量	75.0	77.3	80.4	▲0.3	4.0
中国	35.9	37.7	39.8	-	5.6
インド	11.4	13.0	14.5	0.5	11.5
フィリピン	4.9	4.3	3.8	▲1.3	▲11.5
インドネシア	4.6	4.3	4.5	▲0.6	4.7
日本	2.4	2.7	3.0	-	10.1
タイ	2.5	2.2	2.7	0.9	22.9
ベトナム	1.4	2.2	1.7	0.1	▲20.3
期末在庫率	17.8%	18.1%	18.7%	▲0.1	0.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.8百万トン増加（0.5%）し、130.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.4百万トン増加（0.2%）し、127.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の拡大などから、0.1百万トン増加（10.0%）し、1.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.1百万トン増加（5.6%）し、39.8百万トンとなり期末在庫率も30.9%（1.6ポイント増）に増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

中国の米の生育進捗状況については、一期作目の収穫が終了し、二期作目は生育期に入っている。なお、南揚子江流域の中部と東部が猛暑に見舞われ、二期作目のコメの分けつに影響が出たと見られている。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を賦課している。

イ インド

【需給状況】

インド生産量は、前年度より0.6百万トン増加（0.6%）し、97.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より2.7百万トン増加（3.0%）し、93.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、2.1百万トン減少（▲51.2%）し、2.0万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.5百万トン増加（11.5%）し、14.5百万トンとなり期末在庫率も15.2%（1.5ポイント増）に増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が1.0百トン、消費量が0.5百トンそれぞれ上方修正され、期末在庫量も0.5百トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのカリフ米（初冬に収穫）については、9月末までに作付けが終了する。

なお、8月最終週に主産地であるパンジャブ州とハリヤナ州を襲った洪水の影響により、同地域での単収の低下が懸念されている。

【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出を禁止、バスマティ米は輸出最低価格の設定と輸出税を課している。

（世界の生産量シェア 1位（2008/09年度30.2%）
輸出量シェア 6位（2008/09年度 3.9%））

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	127.2	129.8	130.6 (129.3)	-	0.5
消費量	127.2	127.3	127.7 (126.8)	-	0.2
輸出量	1.3	1.0	1.1 (1.5)	-	10.0
輸入量	0.5	0.3	0.3 (1.0)	-	10.0
期末在庫量	35.9	37.7	39.8 (56.6)	-	5.6
期末在庫率	27.9%	29.4%	30.9% (44.1%)	-	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.30	29.60	29.75 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	6.20	6.27	6.27 (…)	-	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

（世界の生産量シェア 2位（2008/09年度22.5%）
輸出量シェア 5位（2008/09年度 7.1%））

表－3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	93.4	96.4	97.0 (96.0)	1.0	0.6
消費量	86.9	90.8	93.5 (90.6)	0.5	3.0
輸出量	5.5	4.1	2.0 (2.3)	-	▲ 51.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	…
期末在庫量	11.4	13.0	14.5 (16.0)	0.5	11.5
期末在庫率	12.4%	13.7%	15.2% (17.2%)	0.4	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.00	44.00	45.00 (…)	0.50	2.3
単収(t/ha)	3.18	3.29	3.23 (…)	▲ 0.01	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

ウ インドネシア

【需給状況】

インドネシアの生産量は、良好な天候による単収の増加が見込まれており、前年度より0.8百万トン増加（2.1%）し、36.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（1.4%）し、36.9百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.3百万トン増加（60.0%）し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（4.7%）し、4.5百万トンとなり期末在庫率も12.1%（0.4ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸入量の下方修正に伴い2008/09年度の期首在庫が0.6百万トン下方修正されたことをうけ期末在庫量が下方修正された。

【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、4月11日から輸出を禁止している。

エ タイ

【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.2百万トン増加（1.0%）し、19.5百万トンとなる見込みである。

なお、タイの農業経済局によると、2008年の気象状況は良好であり、2008年の農業GDPの成長率は4.1%になるとの見解である。

消費量は、前年度より0.1百万トン減少（▲1.0%）し9.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、アジア、アフリカ等からの強い需要が見込まれている前年度から0.5百万トン減少（▲5.0%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（22.9%）し、2.7百万トンとなり期末在庫率も14.4%（3.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.7百万トン、消費量が0.1百万トン、輸出量が0.5百万トン、それぞれ上方修正され、加えて2007/08年度の実生産量の上方修正に伴い2008/09年度の期首在庫が0.7百万トン上方修正されたことにより、期末在庫量が0.9百万トンに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

タイの米の生育進捗状況については、4月以降の降水量は十分であることなどから、米の生産量の9割弱を占める雨季作米（秋に収穫）の作付けが順調に行われており、タイの農業経済局では作付面積及び単収が前年を上回り収穫量が増加すると推測している。

〔世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 8.4%）〕

表-4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.3	35.5	36.3 (36.7)	-	2.1
消費量	35.9	36.4	36.9 (36.9)	-	1.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
輸入量	2.0	0.5	0.8 (0.5)	-	60.0
期末在庫量	4.6	4.3	4.5 (2.7)	▲ 0.6	4.7
期末在庫率	12.8%	11.7%	12.1% (7.3%)	▲ 1.6	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	11.90	11.90 (...)	-	0.0
単収(t/ha)	4.60	4.63	4.72 (...)	-	1.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

〔世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 4.5%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度33.6%）〕

表-5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.3	19.3	19.5 (21.3)	0.7	1.0
消費量	9.8	9.6	9.5 (11.5)	0.1	▲ 1.0
輸出量	9.6	10.0	9.5 (10.2)	0.5	▲ 5.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	2.5	2.2	2.7 (3.3)	0.9	22.9
期末在庫率	13.0%	11.3%	14.4% (15.2%)	4.2	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.27	10.60	10.70 (11.3)	0.20	0.9
単収(t/ha)	2.69	2.76	2.76 (2.88)	0.05	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

オ ベトナム

【需給状況】

ベトナムの生産量は、単収が過去最高を記録した昨年度より低下すると見込まれることから前年度より0.4百万トン減少（▲1.8%）し、23.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より0.2百万トン増加（1.2%）し、19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、高い生産が維持されることから前年より0.4百万トン増加（9.5%）し5.2百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は0.1百万トン減少（▲25.0%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.5百万トン減少（▲20.4%）し、1.7百万トンとなり期末在庫率も7.0%（2.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.1百万トン上方修正されたものの、2007/08年度の実生産量が0.2百万トン上方修正されたことにより2008/09年度の期末在庫量が0.1百万トンの上方修正となっている。

【生育進捗状況及び作柄】

ベトナム南部の穀倉地域メコンデルタでは、現在収穫中の夏・秋季作のコメが豊作となり、メコンデルタではこれまでに、稲田160万ヘクタールの内半分余りで収穫が終わり、生産量は最終的に0.8百万トンに達すると予想されている。

【貿易情報】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、6月13日からこれを解除した。ただし、輸出枠（2008年の9月末まで350万トン上限）が設定されている。また、8月15日から新たに輸出税が賦課されている。

カ フィリピン

【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.1百万トン増加（1.2%）し、10.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より0.6百万トン増加（4.8%）し、13.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.5百万トン増加（25.0%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲11.5%）し、3.8百万トンとなり、期末在庫率も29.2%（5.4ポイント減）と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.8百万トン下方修正され、消費量が0.2百万トン、輸入量が0.3百万トンそれぞれ上方修正されており、加えて2006/07及び2007/08年度の実生産量の下方修正及び2007/2008年度の消費量の下方修正により2008/09年度の期首在庫量が下方修正され期末在庫量も1.3百万トン下方修正された。

世界の生産量シェア 5位（2008/09年度 5.5%）
輸出量シェア 2位（2008/09年度 18.4%）

表-6 ベトナムの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.9	24.1	23.7 (24.4)	-	▲ 1.8
消費量	18.8	19.0	19.2 (20.4)	0.1	1.2
輸出量	4.5	4.8	5.2 (4.1)	-	9.5
輸入量	0.5	0.4	0.3 (0.2)	-	▲ 25.0
期末在庫量	1.4	2.2	1.7 (4.4)	0.1	▲ 20.4
期末在庫率	6.0%	9.1%	7.0% (18.0%)	0.2	▲ 2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.36	7.36 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	4.82	4.97	4.88 (…)	-	▲ 1.8
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、 「World Agricultural Production」 FAO 「Food Outlook (June 2008)」					

世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 2.4%）
輸入量シェア 1位（2008/09年度 8.8%）

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.8	10.1	10.2 (11.5)	▲ 0.8	1.2
消費量	12.0	12.6	13.2 (12.7)	0.2	4.8
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
輸入量	1.8	2.0	2.5 (2.1)	0.3	25.0
期末在庫量	4.9	4.3	3.8 (1.8)	▲ 1.3	▲ 11.5
期末在庫率	40.6%	34.5%	29.2% (14.2%)	▲ 10.7	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.19	4.25	4.30 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	3.70	3.76	3.77 (…)	▲ 0.17	0.3
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、 「World Agricultural Production」 FAO 「Food Outlook (June 2008)」					

II 油糧種子

1 2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要

○2008/09年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2008/09年度の油糧種子需給は、中国での食用油需要やEU等でのバイオディーゼル用需要が拡大する中、米国の大豆の作付拡大やEU等のなたねの増産などで、油糧種子全体としては、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

ただし、期末在庫量の積み上げはわずかであり、消費量の伸びから期末在庫率は前年度と同水準となり、引き続き油糧種子全体の需給は引き締まった状態が続くと見込まれる。

【生産量】

世界の油糧種子全体の生産量は、大豆、ひまわり種、なたね等の増加から前年度より29.1百万トン増加（7.5%）し、417.8百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、米国において大豆価格の高騰や連作障害への懸念などで作付けが拡大したことなどから生産量が増加し、なたねについては、EU等で小麦の作付面積の拡大との競合もあるものの、これまでの天候も比較的好ましい状況で推移したことなどから生産量が増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要の拡大などから、前年度より13.7百万トン増加（3.4%）し、414.1百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、中国、アルゼンチン等で搾油用需要の拡大などから消費量が増加し、なたねについては、バイオディーゼル用需要の拡大を背景としたEU、カナダ等の搾油用需要の拡大などから消費量が増加すると見込まれている。

【貿易量】

世界の油糧種子の貿易量は、0.4百万トン増加（0.5%）し、92.8百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、貿易量の4割強を輸入する中国で豊作から輸入量が減少に転じ、EUも輸入が減少することなどから、貿易量の減少が見込まれている。一方、なたねについては、バイオディーゼル需要の拡大などを背景に輸入量の増加が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから1.8百万トン増加（3.1%）し、60.4百万トンとなる見込みである。また、油糧種子全体の期末在庫率は、期末在庫量は積み増しされるものの、消費量も増加することから、前年度と同水準の14.6%と引き続き低水準となる見込みである。

品目別には、大豆、なたねともに期末在庫量は前年から積み増しされる。大豆の期末在庫率は消費の増加から低下するものの2割を上回っており、世界全体としては極度の需給の引き締まりはみられない。なたねの期末在庫率は、1割を下回っており、依然として低水準であると見込まれている。

表－1 世界の油糧種子需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	油糧種子計	403.3	388.7	417.8	▲ 1.7	7.5
	うち、大豆	236.6	218.2	238.0	0.6	9.1
	なたね	45.2	48.2	53.4	1.2	10.6
	綿花	45.8	46.0	43.3	▲ 0.2	▲ 5.9
	ピーナッツ	30.5	32.3	33.3	0.3	3.2
ひまわり種	29.8	27.2	32.2	▲ 0.3	18.5	
消費量	油糧種子計	392.5	400.4	414.1	▲ 0.3	3.4
	うち、大豆	224.8	230.1	236.8	▲ 1.1	2.9
	なたね	46.6	48.8	51.9	0.8	6.3
	綿花	46.0	45.8	43.8	▲ 0.0	▲ 4.5
	ピーナッツ	30.4	32.0	32.7	0.3	2.2
ひまわり種	29.4	27.2	31.5	▲ 0.2	16.1	
うち、搾油用	油糧種子計	328.6	339.3	350.3	▲ 1.1	3.2
	うち、大豆	195.5	203.0	206.4	▲ 1.3	1.7
	なたね	43.9	46.4	49.1	0.5	5.7
	綿花	34.0	34.5	33.8	▲ 0.3	▲ 2.0
	ピーナッツ	13.8	14.8	15.3	0.1	3.1
ひまわり種	26.0	24.2	28.4	▲ 0.2	17.7	
貿易量	油糧種子計	83.7	92.4	92.8	2.5	0.5
	うち、大豆	71.5	79.0	77.6	1.9	▲ 1.7
	なたね	6.6	8.4	9.7	0.5	15.4
	綿花	1.0	0.9	0.7	▲ 0.0	▲ 26.6
	ピーナッツ	2.5	2.5	2.5	0.0	▲ 1.2
ひまわり種	1.9	1.3	2.0	0.0	55.7	
期末在庫量	油糧種子計	72.5	58.6	60.4	3.0	3.1
	うち、大豆	62.7	50.1	51.2	2.0	2.2
	なたね	4.4	3.3	4.2	1.0	27.2
	綿花	1.1	1.2	0.8	0.0	▲ 36.6
	ピーナッツ	1.1	0.8	0.9	0.0	12.2
ひまわり種	3.0	2.7	2.8	▲ 0.0	1.1	
期末在庫率	油糧種子計	18.5%	14.6%	14.6%	0.7	▲ 0.0
	うち、大豆	27.9%	21.8%	21.6%	0.9	▲ 0.2
	なたね	9.5%	6.8%	8.2%	1.9	1.3
	綿花	2.4%	2.7%	1.8%	0.0	▲ 0.9
	ピーナッツ	3.7%	2.6%	2.8%	0.0	0.3
ひまわり種	10.4%	10.0%	8.7%	0.0	▲ 1.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、PS & D

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度の油糧種子需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、大豆の生産量が、米国で8月の乾燥傾向などから下方修正され、一方、アルゼンチンでとうもろこしからの作付転換、中国で良好な天候等を反映してそれぞれ上方修正された。なたね生産量は、カナダ、EUで良好な作柄を反映して上方修正され、油糧種子全体で1.7百万トン上方修正されている。一方、消費量はなたねが上方修正されたものの、大豆は米国で下方修正されており油糧種子全体で0.3百万トン下方修正されている。生産量の上方修正と消費量の下方修正により、期末在庫量は3.0百万トン上方修正され、需給は緩和傾向に修正された。

○ 大豆

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.6	▲ 1.1	▲ 1.3	1.9	…	2.0
米国	▲ 1.1	▲ 0.8	▲ 0.8	-	0.1	▲ 0.0
ブラジル	-	-	-	-	-	0.3
カナダ	0.1	0.0	-	0.1	-	▲ 0.0
中国	0.5	0.3	0.2	-	-	1.0
アルゼンチン	1.0	▲ 0.2	▲ 0.2	1.0	0.7	0.4

○ なたね

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.2	0.8	0.5	0.5	…	1.0
カナダ	0.6	0.2	0.0	0.2	-	1.0
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
EU-27	0.3	0.6	0.4	-	0.3	0.0
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要

○2008/09年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、昨年度にとうもろこしへの作付転換により縮小した米国の作付けが、大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大する見込みであり、世界の生産量も増加が見込まれている。

需要面では、中国、アルゼンチン等で搾油用需要を中心に拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回るものの、消費量の増加から期末在庫率は前年より低下すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、インドで減少するものの、世界第1位の生産国で主要輸出国である米国の作付け拡大などから、世界全体では前年度より19.8百万トン増加（9.1%）し、238.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別には米国が下方修正され、アルゼンチン、中国等で上方修正された。

【消費量】

消費量は、EU等で減少するものの、中国、アルゼンチン等で搾油需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より6.7百万トン増加（2.9%）し、236.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.1百万トン下方修正されており、国別には米国等が下方修正され、EU等が上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.4百万トン減少（▲1.7%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では米国で輸出量の減少が、ブラジルで増加が見込まれている。一方、輸入国では、貿易量の4割強を輸入する中国で生産量の増加により輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.9百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチン、パラグアイ等の輸出量、EU、アルゼンチンの輸入量が上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より1.1百万トン増加（2.2%）し、51.2百万トンとなるものの、消費量が増加していることから期末在庫率は21.6%に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.0百万トン上方修正されており、国別には中国、アルゼンチン等が上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	236.6	218.2	238.0	0.6	9.1
米国	86.8	70.4	79.8	▲ 1.1	13.5
ブラジル	59.0	61.0	62.5	-	2.5
アルゼンチン	48.8	46.5	50.5	1.0	8.6
中国	15.2	13.5	16.5	0.5	22.2
インド	7.7	9.3	9.2	0.1	▲ 1.1
パラグアイ	6.2	6.8	7.2	-	5.9
カナダ	3.5	2.7	3.2	0.1	17.4
消費量	224.8	230.1	236.8	▲ 1.1	2.9
うち搾油用	195.5	203.0	206.4	▲ 1.3	1.7
米国	53.2	51.0	53.1	▲ 0.8	4.0
中国	45.4	48.9	51.6	0.3	5.6
アルゼンチン	35.1	36.9	39.0	▲ 0.2	5.9
ブラジル	34.0	35.2	35.5	-	0.9
EU-27	16.1	16.2	15.0	0.6	▲ 7.4
インド	7.7	9.2	9.2	0.1	▲ 0.4
日本	4.3	4.3	4.3	-	0.0
貿易量 (輸出)	71.5	79.0	77.6	1.9	▲ 1.7
米国	30.4	31.4	27.2	-	▲ 13.4
ブラジル	23.5	25.5	27.5	-	7.8
アルゼンチン	9.6	13.5	13.9	1.0	3.0
パラグアイ	4.5	5.1	5.4	0.8	6.3
カナダ	1.7	1.8	1.7	0.1	▲ 5.8
(輸入)					
中国	28.7	36.5	36.0	-	▲ 1.4
EU-27	15.3	15.4	14.4	0.7	▲ 6.8
日本	4.1	4.1	4.1	-	0.0
メキシコ	3.9	3.8	3.6	-	▲ 2.9
アルゼンチン	2.0	3.0	3.3	0.7	12.7
台湾	2.4	2.3	2.3	-	2.2
タイ	1.5	1.6	1.7	-	3.1
期末在庫量	62.7	50.1	51.2	2.0	2.2
アルゼンチン	22.6	21.7	22.6	0.4	4.1
ブラジル	18.2	18.6	18.3	0.3	▲ 1.8
米国	15.6	3.8	3.7	▲ 0.0	▲ 3.8
中国	2.7	3.4	3.9	1.0	15.8
EU-27	1.1	1.0	1.0	0.2	▲ 4.3
期末在庫率	27.9%	21.8%	21.6%	0.9	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、主産地である中西部での天候不順や洪水による生育の遅れが見られるものの、昨年度に大幅に縮小した作付けが大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大する見込であり、前年度より9.4百万トン増加（13.5%）し、79.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の消費は減少するものの、他の分野での消費量の増加が見込まれることから前年度より2.1百万トン増加（4.0%）し、53.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量は増加するものの在庫水準が低下していることやブラジルの輸出量増加見込みなどから、4.2百万トン減少（▲13.4%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度と同水準の3.7百万トンとなり、期末在庫率も前年度と同水準の4.6%と引き続き低水準となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、中西部の乾燥天候による単収の下方修正から生産量が1.1百万トン下方修正され、搾油用の消費量も0.8百万トン下方修正された。また、輸入量は0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の大豆の主要18州の生育進捗状況については、44%が落葉期を迎えたが、天候不順による作付けの遅れなどで生育は遅れており、落葉率は過去5年の平均に比べ20ポイント（前年に比べ26ポイント）ほど進捗が遅れている。生育の遅れから、秋の早霜などに遭う天候リスクなど、中西部などの今後の天候に注視が必要である。

作柄については、優良が11%と前年度の同時期や最終より下回っているが、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

なお、主要産地の中西部では、8月の乾燥天候は単収を低下させたと見られており、また、生育の遅れから早霜などのリスクもあり、今後の天候に引き続き注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース79.9%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度33.6%）
輸出量シェア 2位（2008/09年度35.1%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	86.8	70.4	79.8	▲ 1.1	13.5
消費量	53.2	51.0	53.1	▲ 0.8	4.0
うち搾油用	49.2	49.4	48.6	▲ 0.8	▲ 1.7
輸出量	30.4	31.4	27.2	-	▲ 13.4
輸入量	0.3	0.3	0.3	0.1	0.0
期末在庫量	15.6	3.8	3.7	▲ 0.0	▲ 3.8
期末在庫率	18.7%	4.6%	4.6%	0.1	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	25.42	29.68	-	16.8
単収(t/ha)	2.87	2.77	2.69	▲ 0.04	▲ 2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大豆の生育進捗状況及び作柄（9月21日現在）

〔生育進捗状況〕

落葉率 44% （平年差：▲20 p、前年差：▲26 p）

〔作柄〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2008/09	11	46	29	10	4
	前年度同時期	14	44	26	11	5
	前年度最終	14	43	26	11	6

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、リアル高や厳しい経営が続いているが、価格高騰による作付け拡大などから前年度より1.5百万トン増加（2.5%）し、62.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（0.9%）し、35.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より2.0百万トン増加（7.8%）し、27.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.3百万トン減少（▲1.8%）し、18.3百万トンとなり期末在庫率も29.0%（1.7ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.3百万トン上方修正されたことによる2008/09年度の期首在庫の上方修正された期末在庫量も0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの大豆の作付けは、10月下旬頃から始まる。

なお、2007/08年度は、一部地域でラニーニャ現象による降水量の減少や大豆さび病の発生等があったが、生産には大きな影響を及ぼさなかった。

ウ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、昨年度に低下した単収が上昇する見込みであることから、前年度より0.5百万トン増加（17.4%）し、3.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度と同水準の1.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が回復するものの在庫水準が低水準にあることなどから0.1百万トン減少（▲5.8%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年より0.1百万トン増加（37.0%）し、0.2百万トンとなり、期末在庫率は5.8%（1.6ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正を受け、生産量が0.1百万トン上方修正された。さらに、輸出量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は成熟期に入っており、9月上旬には、マニトバ州東部及び中部の大豆は色が変わり始めている。最も早い品種では葉が落ち、さやが黄色に変わる落葉期であり、実入りの最終段階に近いので、今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位（2007年数量ベース 8.8%）
世界の生産量シェア 2位（2008/09年度26.3%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度35.4%）

表-3 ブラジルの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	59.0	61.0	62.5 (60.7)	-	2.5	
消費量	34.0	35.2	35.5 ...	-	0.9	
うち搾油用	31.1	32.3	32.5 ...	-	0.8	
輸 出 量	23.5	25.5	27.5 ...	-	7.8	
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 ...	-	6.7	
期末在庫量	18.2	18.6	18.3 (21.7)	0.3	▲1.8	
期末在庫率	31.6%	30.7%	29.0% ...	0.5	▲1.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	20.70	21.30	22.00 (21.60)	-	3.3	
単収(t/ha)	2.85	2.86	2.84 (2.81)	-	▲0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2007年数量ベース 7.4%）
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 1.3%）
輸出量シェア 5位（2008/09年度 2.2%）

表-4 カナダの大豆需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	3.5	2.7	3.2 (3.2)	0.1	17.4	
消費量	2.0	1.7	1.7 (1.9)	0.0	2.5	
うち搾油用	1.5	1.4	1.5 ...	-	6.4	
輸 出 量	1.7	1.8	1.7 (1.7)	0.1	▲5.8	
輸 入 量	0.2	0.3	0.4 (0.4)	-	16.7	
期末在庫量	0.7	0.1	0.2 (0.2)	▲0.0	37.0	
期末在庫率	18.4%	4.1%	5.8% (4.3%)	▲0.7	1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	1.20	1.17	1.21 (1.21)	-	3.4	
単収(t/ha)	2.88	2.31	2.62 (2.62)	0.09	13.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
AAFC「Pulse and Special Crops Outlook (September 3, 2008)」

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、北東部の作付け面積の増加と昨年度干ばつにより低下した単収の回復が見込まれることから、前年度より3.0百万トン増加(22.2%)し、16.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より2.7百万トン増加(5.6%)し、51.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の0.4百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は生産量の増加に伴い0.5百万トン減少(▲1.4%)し、36.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.5百万トン増加(15.8%)し、3.9百万トンとなり、期末在庫率も生産量の増加により期末在庫量が積み増しされることから、7.5%(0.7ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正により生産量が0.5百万トン、消費量が0.3百万トン上方修正された。加えて2007/08年度の入量の上方修正による2008/09年度の期首在庫の上方修正から期末在庫量も1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国北東部の主要産地では、8月初旬に適度の降水量に恵まれ、大豆の生育は順調に推移し、現在は収穫期を迎えている。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取消し、輸出税を課している。

オ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、価格高騰による作付け拡大やとうもろこしの生産コスト高などによる大豆への作付転換などから前年度より4.0百万トン増加(8.6%)し、50.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加から前年度より2.1百万トン増加(5.9%)し、39.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、中国の入量の増加により、0.4百万トン増加(3.0%)し、13.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.9百万トン増加(4.1%)し、22.6百万トンとなるものの、消費量及び輸出量が生産量を上回ることから、期末在庫率は42.7%(0.4ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積の上方修正により生産量が1.0百万トン、輸出量が1.0百万トン、輸入量が0.7百万トン、期末在庫量が0.4百万トンそれぞれ上方修正され、消費量が0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの大豆の作付けは、11月頃から始まる。なお、昨年度(2007/08年度)の収穫は終了しており、開花期の天候不順で生産量は前々年度を下回った。

【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等がストライキを実施。その後、同制度の関連法案は廃案となった。なお、現在も従前の輸出税は賦課されている。

我が国の輸入先国シェア 4位 (2007年数量ベース 3.3%)
世界の生産量シェア 4位 (2008/09年度 6.9%)
輸入量シェア 1位 (2008/09年度 46.4%)

表-5 中国の大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	13.5	16.5 (16.4)	0.5	22.2
消費量	45.4	48.9	51.6	0.3	5.6
うち搾油用	35.5	38.8	41.2	0.2	6.4
輸出量	0.5	0.5	0.4	-	▲ 11.1
輸入量	28.7	36.5	36.0	-	▲ 1.4
期末在庫量	2.7	3.4	3.9	1.0	15.8
期末在庫率	5.8%	6.8%	7.5%	1.9	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.10	8.70	9.40 (9.35)	-	8.0
単収(t/ha)	1.67	1.55	1.76 (1.75)	0.06	13.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

世界の生産量シェア 3位 (2008/09年度 21.2%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度 17.9%)

表-6 アルゼンチンの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.5	50.5 (50.8)	1.0	8.6
消費量	35.1	36.9	39.0	▲ 0.2	5.9
うち搾油用	33.6	35.4	37.5	▲ 0.2	6.1
輸出量	9.6	13.5	13.9	1.0	3.0
輸入量	2.0	3.0	3.3	0.7	12.9
期末在庫量	22.6	21.7	22.6 (27.3)	0.4	4.1
期末在庫率	50.6%	43.1%	42.7%	0.2	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.37	18.00 (17.80)	0.30	10.0
単収(t/ha)	2.99	2.84	2.81 (2.85)	0.01	▲ 1.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

3 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要

○2008/09年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、EU等で小麦の作付面積の拡大との競合による作付面積の減少があるものの、比較的良好な天候を背景に世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EU、カナダ等でバイオディーゼル需要の拡大に伴う搾油用需要の増加を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇するものの、依然として低水準であると見込まれている。

【生産量】

生産量は、EU、中国、カナダ等の主要生産国で増加することから、世界全体では前年度より5.2百万トン増加（10.6%）し、53.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、EUが上方修正された。

【消費量】

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから油糧種子全般での需要増大により、EU等で搾油需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.1百万トン増加（6.3%）し、51.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別にはEU、カナダが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.3百万トン増加（15.4%）し、9.7百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリアが生産量の回復により輸出量を増加させるものの、カナダは輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、生産国でもあるEUが域内のなたね需要を満たすため、輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはカナダの輸出量、EUの輸入量が上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、カナダ等で積み増しされ、世界全体では前年度より0.9百万トン増加（27.2%）し、4.2百万トンとなり、期末在庫率も8.2%まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正されており、国別にはカナダ等で上方修正された。

表－1 世界のなたね需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	45.2	48.2	53.4	1.2	10.6
EU-27	16.1	18.4	19.1	0.3	3.5
中国	11.0	10.4	11.0	-	6.0
カナダ	9.0	9.5	10.4	0.6	8.9
インド	5.8	5.5	5.8	-	6.4
ウクライナ	0.6	1.1	2.8	-	154.5
オーストラリア	0.6	1.1	1.6	-	50.2
ロシア	0.5	0.6	0.7	-	10.8
消 費 量	46.6	48.8	51.9	0.8	6.3
うち搾油用	43.9	46.4	49.1	0.5	5.7
EU-27	16.6	19.1	20.4	0.6	6.8
中国	11.9	11.2	11.7	-	4.2
インド	6.4	5.9	5.9	-	1.4
カナダ	4.0	4.2	4.7	0.2	13.4
日本	2.2	2.2	2.3	-	2.8
パキスタン	1.1	1.1	1.3	-	17.0
メキシコ	1.1	1.2	1.3	-	4.2
貿 易 量	6.6	8.4	9.7	0.5	15.4
(輸出)					
カナダ	5.4	5.9	5.3	0.2	▲ 9.4
ウクライナ	0.5	0.9	2.3	-	143.2
オーストラリア	0.2	0.6	0.9	-	62.7
米国	0.2	0.4	0.4	-	▲ 19.5
EU-27	0.1	0.4	0.3	-	▲ 20.7
ロシア	0.1	0.1	0.1	-	12.0
オーストラリア	0.0	0.1	0.1	-	34.0
(輸入)					
日本	2.2	2.3	2.3	-	2.2
EU-27	0.4	0.7	1.9	0.3	169.7
メキシコ	1.1	1.2	1.3	-	4.2
パキスタン	0.8	0.9	1.1	-	16.7
米国	0.6	0.9	0.7	-	▲ 19.0
中国	1.0	0.9	0.7	-	▲ 17.6
アラブ	0.3	0.5	0.6	-	14.6
期末在庫量	4.4	3.3	4.2	1.0	27.2
EU-27	1.4	1.0	1.2	0.0	17.1
カナダ	1.8	1.5	2.1	1.0	36.3
オーストラリア	0.3	0.2	0.4	-	58.6
日本	0.1	0.1	0.1	-	▲ 2.9
ロシア	0.1	0.1	0.1	-	32.9
米国	0.1	0.2	0.1	▲ 0.0	▲ 49.7
インド	0.5	0.1	0.1	-	▲ 50.0
期末在庫率	9.5%	6.8%	8.2%	1.9	1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、バイオディーゼル需要を背景としたなたね価格の高騰による作付け拡大や、単収の回復基調により、前年度より0.9百万トン増加（8.9%）し、10.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（13.4%）し、4.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EU、中国等の他の主要生産国での生産量の増加に伴い前年度より0.6百万トン減少（▲9.4%）し、5.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加（36.3%）し、2.1百万トンとなり、期末在庫率も21.0%（5.6ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.8百万トン上方修正されたことによる2008/09年度の期首在庫の上方修正や、単収の上方修正による生産量の上方修正により期末在庫量も1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、現在、収穫期を迎えている。一時天候不順が懸念されたものの、概ね順調に生育したとみられる。単収及び品質ともに良好であり、一部地域の生育が遅れたところでは収穫が遅れているものの、昨年を上回る作柄が見通されている。

イ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、小麦と同様に2年連続の干ばつの影響で低下していたが、0.5百万トン増加（50.2%）し、1.6百万トンとなり平年並みに回復する見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.6%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.3百万トン増加（62.7%）し、0.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（58.6%）し、0.4百万トンとなり期末在庫率も26.0%（3.9ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのなたねは、現在、生育期の後半を迎え、10月中頃以降に収穫を迎える。全般的に乾燥傾向による土壌水分不足が懸念される中で7月下旬に降雨があり、なたねの生育の改善に繋がったと見られている。8月は西オーストラリア州南部の生産地帯などで乾燥傾向が続いていることから、今後の十分な降雨が必要であり、引き続き天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース92.9%）
世界の生産量シェア 3位（2008/09年度19.4%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度54.5%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.0	9.5	10.4 (10.4)	0.6	8.9
消費量	4.0	4.2	4.7 (4.6)	0.2	13.4
うち搾油用	3.6	4.0	4.2	0.0	4.7
輸出量	5.4	5.9	5.3 (5.7)	0.2	▲ 9.4
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.8	1.5	2.1 (1.7)	1.0	36.3
期末在庫率	19.4%	15.4%	21.0% (16.5%)	9.6	5.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.24	6.23	6.32 (6.32)	0.02	1.4
単収(t/ha)	1.72	1.53	1.64 (1.64)	0.08	7.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grains and Oilseeds (September 3, 2008)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2007年数量ベース 7.0%）
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.0%）
輸出量シェア 3位（2008/09年度 9.2%）

表-3 オーストラリアのなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	0.6	1.1	1.6 (1.6)	-	50.2
消費量	0.5	0.5	0.6 (0.7)	-	5.6
うち搾油用	0.5	0.5	0.5 (0.7)	-	5.9
輸出量	0.2	0.6	0.9 (0.9)	-	62.7
輸入量	0.1	0.0	0.0 (0.0)	-	0.0
期末在庫量	0.3	0.2	0.4 (0.0)	-	58.6
期末在庫率	36.7%	22.0%	26.0% (0.0%)	-	3.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.05	1.06	1.20 (1.22)	-	13.2
単収(t/ha)	0.54	1.00	1.33 (1.35)	-	33.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「Australian crop report (September 2008)」

ウ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における小麦の生産調整面積が適用されないことによる小麦の作付拡大により、小麦の転作作物であり作付が競合するなたねの収穫面積が減少するものの、温暖な冬の天候などにより単収が増加することから前年度より0.7百万トン増加(3.5%)し、19.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し前年度より1.3百万トン増加(6.8%)し、20.4百万トンとなる見込みである。

EU域内需要の増加に伴い、輸出量は前年度より0.1百万トン減少(▲20.7%)し、0.3百万トンとなり、輸入量は前年度より1.2百万トン増加(169.7%)し、1.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加(17.1%)し、1.2百万トンとなり期末在庫率も5.8%(0.5ポイント増)と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.6百万トン、生産量及び輸入量が0.3百万トン、それぞれ上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

EUでは全般的には、比較的生育に適した天候に恵まれたことから、良好な作柄となった。なたねの収穫は8月頃に終了している。

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、価格の高騰などにより作付意欲が高まり、前年度より0.6百万トン増加(6.0%)し、11.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(4.2%)し、11.7百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量が回復することなどから0.2百万トン減少(▲17.6%)し、0.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

なたねは昨年10月に作付けされたが、今年初めの大寒波により主要生産地で被害を受けた。開花期や成熟期の間、天候に恵まれたことから単収は回復している。なお、収穫は5月頃に終了している。

世界の生産量シェア	1位 (2008/09年度35.7%)
輸出量シェア	5位 (2008/09年度 3.2%)

表-4 EU-27のなたね需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.1	18.4	19.1 (18.7)	0.3	3.5
消費量	16.6	19.1	20.4 (20.0)	0.6	6.8
うち搾油用	15.7	18.2	19.5 (19.2)	0.4	7.1
輸出量	0.1	0.4	0.3 (0.3)	-	▲20.7
輸入量	0.4	0.7	1.9 (1.6)	0.3	169.7
期末在庫量	1.4	1.0	1.2 (0.9)	0.0	17.1
期末在庫率	8.6%	5.2%	5.8% (4.7%)	▲0.1	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.41	6.57	6.37 (6.25)	▲0.04	▲3.1
単収(t/ha)	2.98	2.80	2.99 (3.00)	0.06	6.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

世界の生産量シェア	2位 (2008/09年度20.6%)
輸入量シェア	6位 (2008/09年度 7.2%)

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.0	10.4	11.0 (11.5)	-	6.0
消費量	11.9	11.2	11.7 ...	-	4.2
うち搾油用	11.5	10.8	11.2 ...	-	4.2
輸出量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
輸入量	1.0	0.9	0.7 ...	-	▲17.6
期末在庫量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
期末在庫率	0.0%	0.0%	0.0% ...	-	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.00	5.70	6.00 (6.82)	-	5.3
単収(t/ha)	1.83	1.82	1.83 (1.69)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、単収が低下するものの収穫面積が回復する見込みであることから、前年度より0.3百万トン増加（6.4%）し、5.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度と同水準の5.9百万トンとなる見込みである。

輸出品、輸入量とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は、前年と同水準の0.1百万トンとなり、期末在庫率は0.8%（0.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

なたねは9月から10月にかけて作付けされ、翌年の2月から3月にかけて収穫が行われることから、今後の天候に注視が必要である。

（世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 10.9%））

表－6 インドのなたね需給（市場年度：10月～翌年9月）

(単位：百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.8	5.5	5.8 (6.4)	-	6.4
消 費 量	6.4	5.9	5.9 ...	-	1.4
うち搾油用	5.7	5.2	5.3 ...	-	1.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.1 ...	-	300.0
期末在庫量	0.5	0.1	0.1 ...	-	▲ 50.0
期末在庫率	7.7%	1.7%	0.8% ...	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.64	5.70	6.20 (6.40)	-	8.8
単収(t/ha)	0.87	0.96	0.94 (0.99)	-	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 2008)」

Ⅲ 今月のトピックス

【増加する飢餓人口】

国際連合食糧農業機関（FAO）は、世界的な食料価格の高騰の影響を受けて、2007年の世界の栄養不足人口を推定し、9月17日に発表した。以下は、その際の報告資料から、栄養不足人口の推移等に関する概略を紹介したものである。

1 2007年の世界の栄養不足人口

2007年の世界の栄養不足人口は、9億2,300万人で、2003-05年の8億4,800万人に比べ7,500万人増加しており、FAOでは食料価格の高騰が要因の大半を占めているとしている。

また、2008年には、食料品価格の高騰の継続により、栄養不足人口は更に増加しているとしている。

2 地域別の栄養不足人口の増加

栄養不足人口の地域別増加をみると、アジア・太平洋地域で最も多く4,100万人増加し、次いでサハラ以南のアフリカで2,400万人増加した。

3 世界食料サミット及びミレニアム開発目標の削減計画の進展

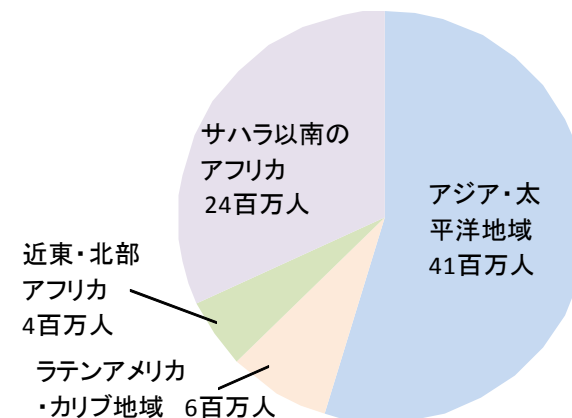
(1) 世界食料サミットの目標：「2015年までに栄養不足人口を半減させる。」

世界の栄養不足人口のうち、開発途上地域に存在するものは、1990-92年の8億2,300万人から、2003-05年には8億3,200万人に増加しており、食料価格高騰以前において、既に栄養不足人口の増加に向けて憂慮すべき長期的傾向が明らかになっていた。さらに2007年には、9億700万人と推定されている。

(2) 国連ミレニアム・サミットのミレニアム開発目標：「2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を1990年の水準の半数に減少させる。」

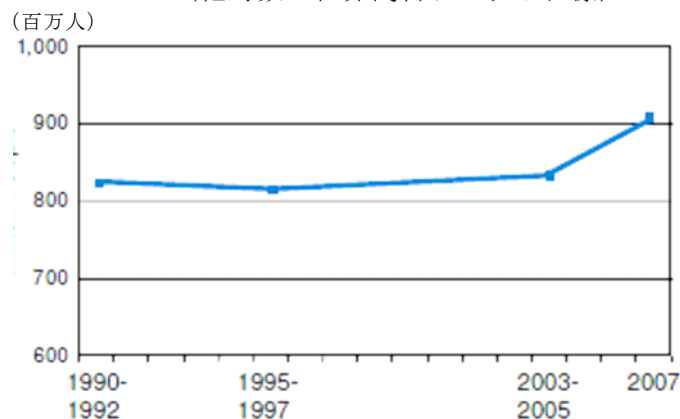
開発途上地域の栄養不足人口の割合を見ると1990-02年の20%から、1995-97年には18%、2003-05年には16%と着実に減少していたが、2007年は17%と10年前と同じ水準まで後退してしまった。

図－1 食料価格高騰の地域別影響
(2007年における栄養不足人口の増加分)



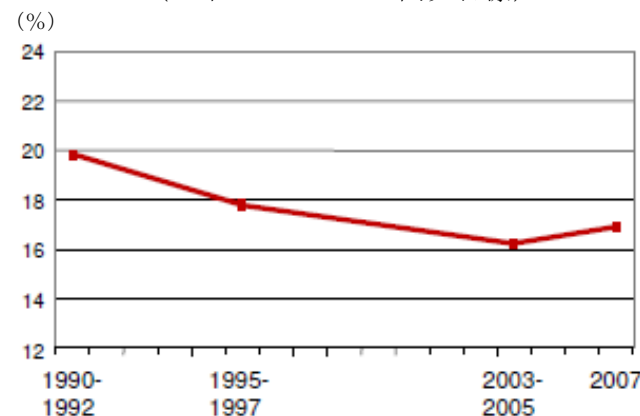
資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

図－2 開発途上地域における栄養不足人口
(絶対数：世界食料サミット目標)



資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

図－3 開発途上地域における栄養不足人口
(比率：ミレニアム開発目標)



資料：FAO「Briefing paper: Hunger on the rise」

※ 上記の詳細は、FAOホームページ：” <http://www.fao.org/newsroom/common/ecg/1000923/en/hungerfigs.pdf> ” から入手できます。

【バイオエタノール生産と畜産飼料】

米国の再生可能燃料協会（RFA）は、9月25日にレポート「FEEDING THE FUTURE：THE ROLE OF THE U.S. ETHANOL INDUSTRY IN FOOD AND FEED PRODUCTION」を公表し、RFAによるバイオエタノールの製造と動物用飼料の生産等に関する分析結果と見解を発表した。

以下は、その際のRFAによるプレスリリースの概略を紹介したものである。

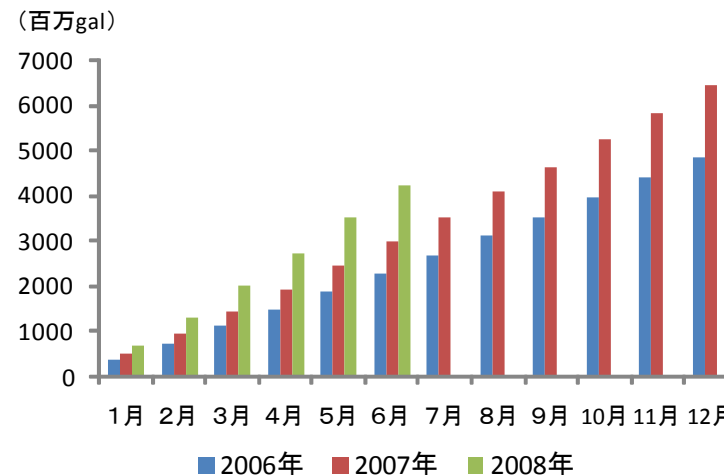
- 1 昨年、米国エタノール業界が供給した飼料^(注)の量は、2,300万トン。これは、米国の家畜に供給された小麦、ソルガム、大麦、オーツ麦の総量（2007/2008年度）の3倍に相当する。あるいは、別の言い方をすれば、米国の4大牛肉生産地であるテキサス州、カンザス州、ネブラスカ州、コロラド州の肉用牛に与えられた飼料の総量に相当する。
- 2 エタノール産業が、エタノールと共に、大量の高たんぱく・高エネルギー飼料を生産していることは、見過ごされがちである。エタノール工場で加工されるとうもろこしのうち、燃料に使われるのはその2/3に過ぎず、残りの1/3は、デイスチラーズ・グレイン、コーン・グルテン、コーン・グルテン・ミールの形で、飼料市場に還流しているのである。
- 3 こうした飼料は、各々のバイオ燃料工場で利用する技術により様々だが、いずれも栄養価が高く、米国内外の畜産向け飼料として、とうもろこしやたんぱく質ミールの代替に益々利用されるようになってきている。実際、2007/2008年度には、100万ブッシェルのとうもろこしがエタノールと共に生産される飼料に代替された。これは、飼料用とうもろこし需要の約15%に相当する量である。
- 4 RFAの予想では、デイスチラーズ・グレイン（最も一般的なエタノールと共に生産される飼料）の輸出は、2008年には400万トンを超える。これは、とうもろこしに換算すれば、1.6億ブッシェルに相当する量である。
- 5 さらに、エタノール生産に使用されるとうもろこしの1/3が飼料市場に還流しているということは、エタノール用として使用されるとうもろこしのネットの量は、大きく異なるということだ。USDAの推計によれば、2008/2009年度にエタノール生産に使用されるとうもろこしは41億ブッシェル（RFAの推計では38億ブッシェル）だが、（飼料となる分を差し引いた）ネットでは、29億ブッシェルとなる。これは、とうもろこしの需要総量の23%に過ぎない。「エタノールが米国のとうもろこし供給量の1/3以上を使っている」という、誤解を招く主張より、ずっと低い。

注： エタノール業界は、エタノールの製造と同時にデイスチラーズ・グレインなどの動物用飼料に用いられる製品も製造している。

※ 上記の詳細は、RFAホームページ：” <http://renewablefuelsassociation.cmail1.com/e/526433/ewsily/> ” から入手できます。

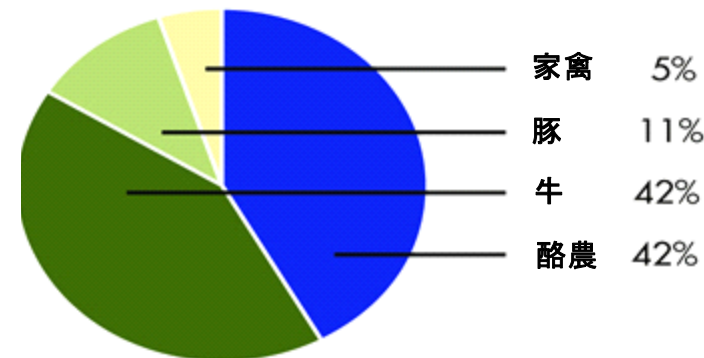
(参考図表)

図－1 米国におけるバイオエタノールの月別積生産量



資料：RFA「Monthly U.S. Fuel Ethanol Production/Demand」

図－2 北アメリカのデイスチラーズ・グレインの需要割合 (2007年)

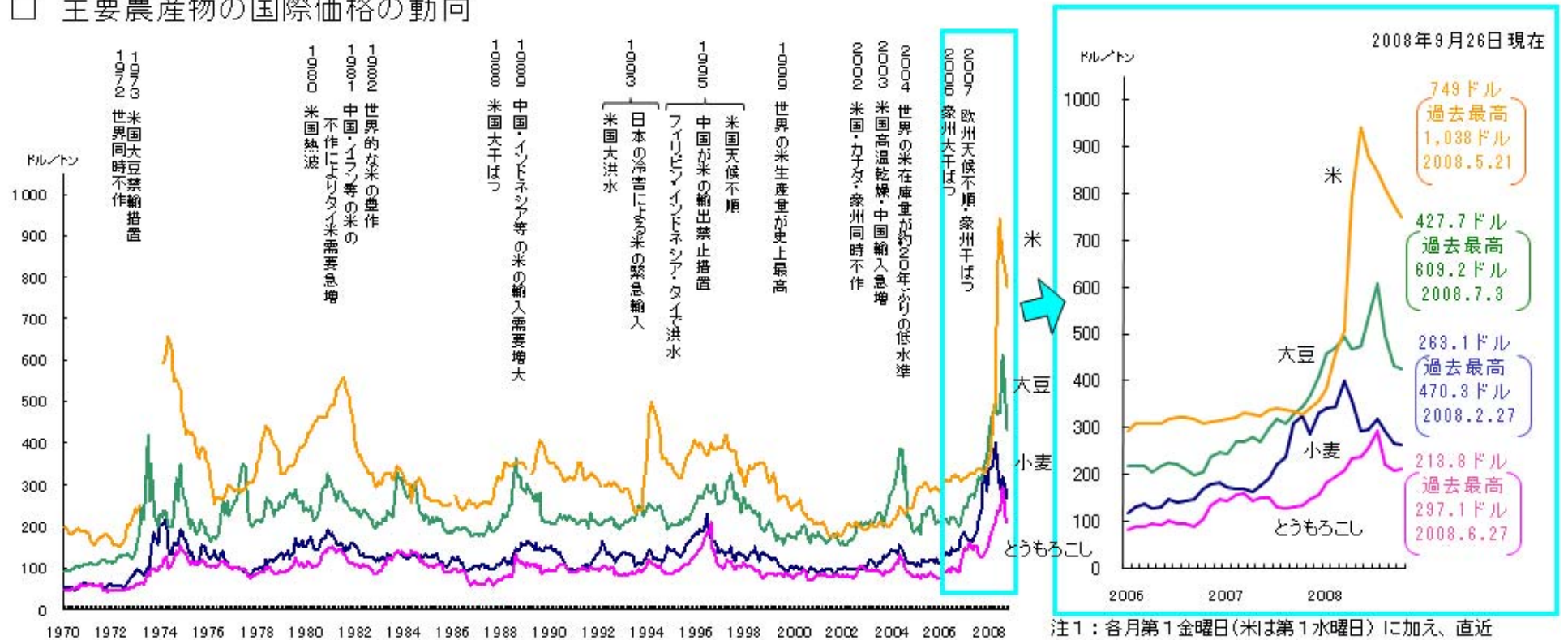


資料：CHS / RFA

【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移、現在は、小麦の豊作予測などから最高値に比べやや低下したものの、依然として高水準にあり、当面、この水準が続くものと見込まれている。
- その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあると言われているが、基本的には、穀物の種類によって差異はあるものの、
 - ① 中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、
 - ② 世界的なバイオ燃料の原料という食料以外の需要の増大、
 - ③ 地球規模の気候変動の影響
 といった中長期的に継続する構造的な要因があり、こうした状況の中で、輸出国による輸出規制も影響している。
- なお、米については、農産物の中でも特に貿易量の割合が低く、輸出を少数かつ特定の国で占めている中で、ベトナム、インド等の主要輸出国で輸出規制が相次いで実施されていることが、主な要因となっている。

□ 主要農産物の国際価格の動向



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。
米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日（米は第1水曜日）に加え、直近の最終金曜日（米は最終水曜日）を記載
注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC等) の公表資料、民間の調査会社 (Oil World、インフォーマ社情報等) から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者によるワーキンググループ (※参照) において検証、整理、分析したものである。

※ワーキンググループメンバー：

大臣官房食料安全保障課、大臣官房国際部国際政策課、主要穀物等の所管課 (総合食料局食品産業振興課、食糧部計画課、食糧貿易課、生産局畜産部畜産振興課)、食品産業関係課 (総合食料局食品産業振興課、生産局生産流通振興課、畜産部畜産振興課)、農林水産政策研究所

- 海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が9月21日までに発表した当月分の情報を引用している。さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページ (<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>) を参照されたい。
主な参考資料
「World Agricultural Supply and Demand Estimates (September 2008)」、
「Grain: World Markets and Trade (September 2008)」、
「Oilseeds: World Markets and Trade (September 2008)」、
「World Agricultural Production (September 2008)」、
「PS&D (September 2008)」 など
- 2008/09年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものである。また、2006/07年度、2007/08年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがある。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動しうる数値である点に留意いただきたい。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されている。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なる。収穫の時期が1年間に2回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されている。
例：米国小麦の2008/09年度は、2008年6月から2009年5月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われる。2008/09年度であれば、2007年9月～10月に作付けされ2008年6月～7月に収穫される冬小麦と、2008年4月～5月に作付けされ2008年8月～9月に収穫される春小麦が、予測の対象となる。
各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されている。
<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>
- 「今月のトピックス」については、干ばつ等の異常気象など特に注目すべき情報や各種機関等から最近公表された食料需給等に関連するレポートの内容の紹介など、さまざまな関連情報について提供することを目的としたものである。
- 本資料の引用等については、出所 (農林水産省発行「海外食料需給レポート (Monthly Report)」) を併記されたい。